

# インドという国と遠隔高等教育機関 IGNOU

浜野保樹

「インドは何事によらずケタ外れの国であった」とD・ラピエールとL・コリンズは『今夜、自由を』という本の中で書いた。インドの遠隔高等教育も、この伝統に背かぬものであった。

インドを旅行する外国人は、2種類に分かれるという。二度とインドには行きたくないと思う者と、インドにのめり込んでしまう者に分かれるというのだ。前者は、カルカッタ、ボンベイ、ニューデリーの空港に降り立ったとたん、三島由紀夫が言った「有名な貧困」と遭遇することからはじまる。無数の物乞いに取り囲まれ、外国人と見れば寄ってくるわけのわからない連中にまず驚き、次に激しい貧富の差、不衛生、地上にあるものすべてを溶かしてしまうかのような灼熱、厳然と存在する階級制度、信じがたいほどの仕事の非能率、「時間の厳守」という言葉などこの国には存在しないかのようないいかげんさ、とめどもないおしゃべりなどによって、この国を憎悪してしまうことになる。一方で、2000年前と同じような生活に接すると、大いなる悠久の時に圧倒され、精神生活の深さに驚かされる。タッド・シュルツの『1945年以後』によると、インドの人口は毎年2.1%増加し、平均寿命は57歳にすぎない。21世紀の始めには、インドの文盲は6億、ホームレスも6億、失業者は4億に達する。世界最大の民主主義国家は、世界で最も貧しい国なのである。しかし、どのような統計も、インドの実態を示すことはできない。経済でも、身分制度でも、どんな面からきいても、フォスターが言うように「普遍的なインド人なんていうものは現実には存在しない」し、標準的なインドというものもない。

## 宗 教

1960年代の欧米のカウンター・カルチャーの若者は、精神生活を重視するインド文化に自己解放の糸口を見いだしたと思った。彼らの代表ともいえるザ・ビートルズはインド音楽からインド宗教へ関心を広げ、ザ・ビートルズの音楽を通して、インドは自己解放の神秘の国として認知されるようになった。しかし、ザ・ビートルズが聖人として崇拝していたインド人、マハリシが詐欺師であることが判明して、インド人のまがまがしさについても、同様に世界中に伝えられたのであった。『インドへの道』の登場人物が言うように、「神秘という聞こえはいいけれど、混乱の別名」にすぎないのかもしれない。インドは精神生活の代名詞ともなっているが、アントニオ・タブッキの言葉を借りると、実は「インドではしばしばそうであるように、他に選択がなかったから」かもしれない。インドでは一般の人々は、物質文明など享受したくてもできなかった。

この国ほど、宗教性が強い国は他にないだろう。「神のほかに神はなし」といって他宗教は許容されることもあるが、無神論は嫌われる。現在でも、ヒンドゥー教の既婚女性の大半は、

額に赤い印を付けている。男性は減ったとはいえ、南に下ると付けている者を見かけるようになる。赤い印は、仮象を通してその裏の真実を見通す「第三の眼」である。額に赤い印をつけただけで、真実を見通せるならば教育など必要ない。科学知識と相入れない、無数の迷信や宗教的規範にかんじがらめになって生きている。

自動車と二輪車でごったがえしている道路には、ヒンドゥーの崇拝の対象となっている聖な牝牛が悠然と寝そべっている。インドが飢餓で飢えたときも、聖なる牝牛たちは殺されることもなく町や農村をただぶらぶらさまよい歩いていただけだった。ときにはイスラム教徒の憎しみの対象になって殺されることはあっても、ヒンドゥー教徒の中では牝牛を殺すことは許されない罪であるという根強い迷信が根付いている。タクシーの運転手は、自分が祈っている場所にくると、横見してハンドルを離し、祈るしぐさをする。イスラム教徒には公然の差別がある。インド国内航空のステュワーデスは、ヒンドゥー教徒の衣装が制服となっている。

イスラム教が、予言者マホメットというただ一人の人物と、彼の手になるただ一つの教典「コーラン」に依存しているのに対し、ヒンドゥー教は天啓宗教であるにもかかわらず、創造者も教条も、典礼も教会もない宗教である。ヒンドゥー教の万神殿の神は3億3000万を越える。日本人の数より多い神がいる。神は生活のすべての瞬間に、あらゆる物象に現れ、仮の姿しかわからないとされている。

ヒンドゥー教の基本的理念である輪廻の思想は、矛盾の多い社会の社会維持的思想として機能し続けている。ヒンドゥー教では、肉体は靈魂の単なる外被にすぎないとする。肉体の生は靈魂が永遠の旅の中で転生する無数の化身の一つにすぎない。それは、宇宙との合一に始まり、合一に完結する鎖の一つの輪にすぎない。現世の生において積み上げたすべての善と悪の決算をカルマ（業）という。ある靈魂が新しい転生において高いカーストあるいは低いカーストのどちらかに生まれ変わるかは、このカルマによって決定される。

「このような因果応報の道德思想は、権力が社会的不平等を維持してゆくための理想的な手段となった。中世のキリスト教会が、永遠の生における応報をダシにして、哀れな農奴に現実の運命を堪え忍ばせたのと同様に、ヒンドゥー教もまた、インドの哀れな人々に対し諦念をもって現実の運命を受容することをもとめたのである」

『今夜、自由を』の説明だ。さらに重要なことは、こういった転生の思想が、現実に生きている時代に何かをなすという強い意識を剝奪し、問題を先送りする態度を生み出したことである。いま問題をかかえていても、それを現世で解決するために努力するよりは、生まれ変わりを待つ。

こういった「先送りの思想」が、すべてを先送りするために、混沌は深まるばかりだ。E・M・フォスターの小説『インドへの道』には、こういう箇所がある。

「『正しいと思うことを先にのばしてはいけない』とハミドゥラが言った。『インドが窮境にうる原因はそれなんだ。われわれがなんでも先にのばしてばかりいるからだ』」

問題を先送りするだけでなく、現状に対していかなる働きかけもしないことをよしとする考え方もある。頭から灰をかぶっている行者サドゥーがその最たるものであろう。家族を捨て財産を捨て、完全無一物の状態に身をおいて、毎朝、頭から灰をかぶり、人間の肉体のはかなさを心に刻み込む。つまり、現状では何をしてもしかたないという諦観に完全に支配されている

のである。

三島由紀夫は、インドを次のように観察している。

「この国へ来て感じることは、問題そのものにとって、解決がすべてではない、ということだ。問題を解決することが問題を消滅させることだとすれば、インド自体が、本当のところ、そのような解決をのぞんでいないということだ。インドは問題がすべてなのであり、そうならば問題は一つもないのと同じである。彼らは問題と一緒に何千年も住んできた。問題とは『自然』なのだ」

三島より先に、フォスターは『インドへの道』の中に書いた。

「どうしたらこのような国を解決することができるだろう。幾世代にわたって侵略者たちは理解しようと試みたが彼らは流浪の民である。彼らが建設した重要な都市は彼らの避難場所にすぎず、母国に帰れない人々は気分が晴れないので喧嘩ばかりしている。インドは彼らの悩みを知っている。いや、全世界の悩みをその奥底まで知っている。インドは、その百の口で、滑稽な物、威厳ある物を通して、「来たれ」と叫ぶ。しかし、何を目当てに来るのか。それをはっきり言ったことは一度もない。インドは約束の土地ではなく、一つの呼びかけにすぎない」

### 身分制度

インドでは憲法で人権の平等を保証しているが、現在でもカースト制は厳然と存在している。

最高のカーストであるバラモンはブラーマンの口から生まれ、武士階級のクシャトリアは両腕から、商人階級はワイシャは腰から、職人階級のシュードラは足から生じ、最下層の不可触賤民（アンタッチャブル）というカーストを持たない民は土の中から出てきたとされている。もともと5つしかなかったカーストは、癌細胞のように増殖し、3000あまりのサブ・カーストに分化した。職業がそれ独自のカーストをもつにいたり、ヒンドゥー社会は無数の閉鎖的ギルドに細分化された。サブ・カーストの区分は厳密で、ブリキ屋と金物でさえ同じサブ・カーストには属さない。現在でも、ヒンドゥー教徒の結婚は、通常、同じカーストに属する者同士で行われる。しかし、サブ・カーストが細分化されているため、条件に合う結婚相手を見つけにくい。そのため、新聞に結婚相手を求める広告を載せたりする。

カースト制は、職業や身分の固定の口実に利用されてきた。1940年代には不可触賤民はインドの総人口の6分の1を越えていた。彼らは前世で犯した罪故に差別されるのである。かつては、学校に入れてもらえなかったことはいうまでもない。

共同研究者である廣田氏がIGNOU（Indira Gandhi National Open University）のカーン氏に学生にカーストを尋ねてもよいかと質問したことがある。IGNOUのコミュニケーション部長で、1990年4月から1991年3月まで放送教育開発センターの外国人研究員であったカーン氏は、大丈夫だと答えた。インド人は解放的な性格だから、そういうことを隠さないということだった。しかし、最初の学生から抵抗にあった。カーストは廃止されたものであるし、なぜそんなことを質問するのかと、学生に反対に質問された。われわれ日本人も、日本で残存している差別の微妙な問題からして、階級を聞くこと自体に罪の意識を感じるところがあるため、最初の学生の抵抗だけでカーストを聞くことを締めることにした。カーン氏が言うように、他の

学生は答えてくれたかもしれないが、最初の学生は軍人幹部で、非常におだやかな人であった。

カーン氏の肯定的な答えは、インド人の有名なあの優しさから出たのだと解釈できる。道を尋ねると、その道を知らなくて相手を失望させないために、でたらめを教えてしまう。どうせ地球は丸いのだから。インドでは、理解に苦しむような多くのトラブルに巻き込まれ、アントニオ・タブッキがいうところの「インド流の不意打ち」をやつぎばやにくらったが、親切さゆえの言い逃れと解釈すると理解できる場合が少なかった。自動車の手配をカーン氏の男性秘書に頼むと、運転手が信頼できるかどうか心配なのでカーン氏が大丈夫かとたずねた。秘書は、自分の親友なので大丈夫だと太鼓判を押した。しかし、やってきた運転手は、その秘書のことをまったく知らなかった。その秘書は、親切心からわれわれを安心させようとして、そう言ってしまったにちがいない。

### 多民俗、多言語

E・A・フォスターは、『インドへの道』の中で次のように書いた。

「インドでは、どんな物も、その名前、あるいは種、属を決定することができない。質問を発するだけで、その対象は消えてしまうか、何らかの物の中へ没入してしまうのである」

この地上に類例のない多種多様な人種と宗教と言語と文化の集合体であるインドは、14の公用語をもつ。14の公用語だけでなく、845の方言があるといわれている。彼らをつないでいるものは、植民地支配者が残していった英語だけかもしれない。皮肉にも、支配者がもたらしたこの英語という共通の表現手段がなければ、今日のような巨大なインドの姿はなく、分散された国家になっていた可能性が高い。同じ地域センターの職員でも出身地が異なっていれば、通じるのは英語だけだ。この国の特徴は多様性にある。堀田善衛が言うように、「他国の標準で云えば、インドという国は、まず国というものではない」

パンジャブのウルドゥー語は右から左に書き、マドラスのターミナル語は、上から下に読むことがある。コータ公開大学があるラージャスターン州では、一応教育のある人はヒンディー語か英語を喋ることができるが、州内でも10に近い言語があり、そのいずれもが公用語として認められていないため、農村部に行くと意志疎通が極めて難しいと聞いた。また、南部では反ヒンディー語の動きがあり、ヒンディー語が理解できても、分からないふりをする人がいるらしい。この話に常に引き合いに出されるのは、フランス人と英語である。フランス人は、反米感情から、英語が理解できても喋れないと言うという風説があるからだ。

最近では、テレビの全国放送の影響でヒンディー語が理解できる人が増えている。人口の半数以上を農民を占めており、農村部にはコミュニティー・センターのようなものがあって、そこにテレビ受像機が置いてある。

### 巨大な人口

毎朝のテレビ番組の途中で人口が出る。10万の単位が簡単に変わっていく。11月の初めインドに着いた時には、8億3800万人弱だったと記憶しているが、12月になると8億3900万人を越え、1カ月もたたない内に100万人以上が増えたことになる。コンピューターでつくったギザギザが残る数字の下に、いつも標語が出る。その標語に「Family Planning is essential for

wealth of your family and the country」「Increase resources not people」「Babies by choice not by chance」というのがあった。21世紀には、中国を抜いてインドの人口は世界一になるだろうといわれている。インドでは、政府までもがコンドームを生産している。

1952年にインドを訪問したエレノア・ローズヴェルト（フランクリン・D・ローズヴェルト大統領の未亡人）は、インドの印象について次のように記している。

「私がインドを旅行するにつれ、この新しい政府が直面している仕事の巨大さが、ますます明かになった。インドは特に急速に対応しなければならぬ二つの問題をもっているように私には思われた。その第一は、どうして食糧を増産するかということで、第二は、どうして人口の増加を押さえるかということである」

第一の問題は解決された。しかし、食糧の遍在という問題は残されたままになっている。マハトマ・ガンディは「人間を卑しくする貧困と無秩序な過剰消費の間の適度な均衡」を主張していた。

こういった人口増加に対して、学校教育は対応できない。毎日毎日、学校を作っても足りないといわれている。もしテレビのデータが正しいとしたら、一カ月で100万人も増える人口に対応できる教育システムなどは、地上には存在しないだろう。教師を短期的に増産することなどできないのだから。こういった点に、遠隔教育への要望があるのだが、後で述べるように、この国では学習内容を伝達する郵便や情報通信の基盤が整備されていないので、遠隔教育が本当に必要な場所では遠隔教育のサービスが届かないという事情がある。

8億人以上もの消費者がいる以上、産業は富裕層の限られた対象だけでも十分なりたっていく。カーン氏によると、インドの所得者の上位数%は、ヨーロッパの平均所得に等しい。この国の数%というのは、人数に直すと大変な数になる。そういった豊かな人の豊かな生活は、極めて安い賃金に甘んじる貧しい人たちの存在で成り立っている。その日の飢えをしのぐのに精いっぱい多くの民と、一握りの富豪。

タット・シュルツは『1945年以後』に次のように書いている。

「インドの悲惨な鎖は社会的、経済的な地位というドラマから始まる。完全なデータとしては最新の1985年の数字によれば、インドの一人あたり国民生産（GNP）は270ドルだ。これは国民一人一人の毎年の所得、あるいは一年あたりの稼ぎの額で、インドは『低所得』国グループに入る。（略）日本とアメリカはそれぞれ11,300ドルと16,690ドル。インドの人口はアメリカの5倍であることを考えれば、インドの貧困がどれほどすざまじいか想像がつく。もう一度、この数字をインドの人たちの暮らしの実態に即して考えてみよう。農民人口の51%、都市人口の40%は、公式に絶対的貧困レベルと言われる水準以下の生活をしている。この水準は一人一人の一日あたりの摂取カロリーを物差しにして決められる。インドでは摂取カロリーは健康に生きるのに最低必要な量の96%でしかない。（アメリカでは140%）。つまり村々やボンベイ、カルカッタ、ニューデリーなどの都市の広大なイスラムで人は文字どおり飢え、あばら骨が浮いた大人や栄養不良で奇形化した子どもたちがあふれ、田舎では畑や畜産物からわずかな食糧を得、大都市では大きなゴミ捨て場をあさって食べ物を手にいれているということだ。これがインドの日常的光景で、この亜大陸を縦横に走りまわってもどこでも悪夢のようについてくる」

コータ公開大学があるコータには飛行場があり、ジャイプールからヴァーユドゥート（Vayudoot）航空の小さな飛行機が飛んでいることにはなっているが、私が行こうとしたときには飛んでいなかった。そのため、汽車でコータに行った。午後9時到着予定が10時に到着した。駅舎の中には、見渡す限りところ狭しと浮浪者が寝ていた。

ガンディは繊維工場の閉鎖を主張し、農村の失業者に職を与えるため、工場の代わりに個々の家庭で手車をまわして糸を紡ぐことを奨励した。毎日、ガンディ自らも、糸車を回すことを日課としていた。糸車は現在のインドの国旗にその姿をとどめている。ガンディはどのような物であっても他人が作った物は、同胞の労働による結晶であり、無駄使いはその労働をないがしろにすることと考え、鉛筆を短くなって指でつかめなくなるまで使った。繊維工場の閉鎖は極論かもしれないが、これだけ多くの人々に均等に職業を与えようとする、それしか方法がないのかもしれない。

インドの激しい貧富の差は社会システムに巧妙に組み込まれているため、部外者の目には何をもってしても変化など期待できないのではないかと思われるくらいだ。イギリス統治時代に書かれた『インドへの道』に、次のような記述がある。

「イギリス人の運命は、彼らの前にインドへやって来た諸民族の運命に似てくるように思われる。そういう諸民族はイギリス人と同様に、インドを造り変えようと思ってやって来たのだが、結局はその模様の中に織り込まれ、土ぼこりでおおわれてしまった」

人口との関係でいうならば、ガンディの改革で最も成功を収めたのは、女性の地位の向上であろう。どのような場面でも、女性の社会進出がみられる。1953年春、日本に招待されたエレノア・ローズヴェルトは、天皇皇后と会見した。女性の社会的地位の変化について「皇后は何か指導性を与えることができる」という考えを引き出そうと思ったエレノアは、天皇自ら話する以外は、話しかけてはならないという規則を破って、次のように皇后に切り出した。

「私がパキスタンとインドを訪問しました際、いろいろな変革が起きていましたが、特に夫人の地位と活動に大きな変化を見ました。あらゆる階層の夫人たちが、ともに接近して手をつなぎ、お互いによく知り合うことにより、力を得ているように思われました」

エレノアは、インドでの女性の地位の向上に強い印象を受けていたのだった。インドは、それこそ、国立の遠隔教育大学に名前を冠した女性の首相インディラ・ガンディを出した国である。

ちなみに、エレノアの詰問するような発言に対し、皇后は「私たちにはもっと教育がいるのです」と答えたという。そして数分後には、次のようにつけ加えた。

「私たち女性の生活にいろいろの大きな変化がもたらされようとしています。過去に私たちはいつも、奉仕の一生を送るようにしつけられてきたのであります。そして現在、このような新しい変化がもたらされるにつきまして、本質的な価値が失われる恐れがあります」

女性の社会進出が進めば出生率は減少するといわれているが、インド人口増加は止まりそうにない。インドで見られる女性の地位の向上は、ごく一部の高い階層に限られているのかもしれない。

## 官僚主義と非能率

一端、何かをしようとした時に生じる、肥大化した官僚機構と働いている者のモラルの低さは驚くべきものがある。いつも、その実例と挙げられ、批判し続けられ、語りぐさになっているのが、ガンディ暗殺未遂の時の警察の無能ぶりである。『今夜、自由を』に詳しく捜査状況が書かれてあるが、当時、警察の中で一人として、まともな捜査をした者はいなかった。それこそ、捜査にあたった全員がいいかげんで、なおかつ刑事が嘘をついて、暗殺者を検挙できず、後にガンディをやすやすと殺させてしまった。『インドへの道』に出てくる「東洋においてはあらゆる人間の行為は官僚主義で汚染している」という言葉は、あながち否定できないし、インドでは度を越している。

ジャワハルラル・ネルーのもとで社会主義を目指したインドは、あらゆる種類の会社を政府が経営している。Ashokというホテル・チェーンもそうだし、それこそ既に述べたように、コンドームも作っている。国家公務員の場合、2年の試用期間をなんとか乗り切れば、あとはどんなに遊んでいても仕事を失うことはない聞いた。そのせいか、われわれがインタビューした学生の中にも、政府機関で働きたいという者が多かった。また、政府機関ではカースト制による差別がまったくなくということも関係しているのだろう。大きな政府の元に大量の公務員が働いていて、肥大化した官僚機構の欠陥と怠慢によって、効率などという言葉はあてなさがごとくになっている。フォスターは『インドへの道』の中で、「遠くから同情するのは容易なことだ」と書いたが、インドで仕事をしなければならない人を同情せずにはおれない。

1958年、タシュケントで開かれる第2回アジア・アフリカ作家会議に出席するため、ニューデリー経由でタシュケントに向かおうとしたときのインドでの短い経験を、加藤周一は『続羊の歌』に次のように書いている。インドの官僚主義に直面して、「私は途方に暮れ、疲れきって、『アジア・アフリカ』と私自身を呪った」

ちなみに、堀田善衛の『インドで考えたこと』は、ニューデリーで開かれた第1回アジア・アフリカ会議に参加したおりの感想を綴ったものである。

インドの非能率は官僚機構だけの問題でなく、労働という意識そのものにも関係している。インドでは、一度に二つのことを立派にするということは人間にはできないという考え方があつた。いつでも一つのことにしかやらない。一つのことを済ませないと、他のことができず、同時進行ということはいえないのだ。それに、連綿と異民族に支配され続けてきた歴史を持つインドでは、仕事とは自分の意志で働くものではなく、働かされるものであり、マハラジャにみられるように、成功者というものは働くのではなく、遊んで暮らす者のことであつた。働かないことについて道義的責任を感じたりすることはないし、日本人のように働くことによって自己実現を行うわけでもない。ひとかどの者は働かないのである。

ガンディは、そういった人々を率いて革命をおこさなければならなかつた。それに、ガンディが自由独立の運動を始めたとき、インド国民の85%は文盲で、目に一丁字もない人々を働かすのに、近代的通信手段もいっさい使用できなかった。ラジオのような通信手段などまったくあてにできないこの国で、自分の考え方を普及させなければならなかつた。天才的な大衆運動家であるガンディは、数語で要約でき、どんな無学な者にも理解でき、もっとも簡単な行動で実行できる戦術をとつた。

その戦術とは、何かを行うのではなく、何も行わないことであった。何もしないこと、つまり不服従で反抗を示す。ガンディへの支持を示すには、法を破ったり、イギリスの官憲と戦う必要はなかった。ただ、何もしなければよかったのだ。何もしないことで、ガンディの自由独立の運動への連帯を示すことができた。何かをしようとするすると障害にぶつかるこの国の特徴や、国民性を最大限に活かした戦略だった。まさに、天才的大衆運動家といわれたガンディの天才たる所以である。何事も遅々として進まない国で、今日もストライキだけは一斉に整然と行われる。促進ではなく抑制の国なのである。

### 社会的インフラ

IGNOUでは、これまで大学教育の恩恵を受けなかった農民へのサービスを強調する。発展途上国では、標榜している高邁な理想と実態とが結びついていないことがよくある。この場合もそうだろう。遠隔教育といっても、農村部では教科書による自主学習にすぎないIGNOUのシステムでは、当然、識字能力が必要となるが、国民の半数以上が文盲のインドでも農村の文盲率は極めて高い。農村の男性で読み書きができるのは57%であるのに対し、女性の場合は29%にすぎない。遠隔教育はIGNOUだけで済むことなく、インドの社会的インフラによって、遠隔教育そのものの特性が活かされない場合が少なくない。教育行政を含めたすべての面での行政の計画性のなさが、インドの遠隔教育に悪い影響を与えている。

多くの発展途上国と同様に、インドでも自動車を借り上げると、運転手がついてくる。運転手に領収書を要求すると、すべての運転手が文字が書けなかった。書けたのは自分の署名だけだった。われわれが用意していった英語の領収書に署名してくれというと、英語でSignatureと書いてかるのにもかわらず、どこに署名するのだと聞く者も少なくなかった。運転手はほぼそのようだった。地図を見たり、道路の指示などを読むのはどのようにしているのかと心配になったが、現地の言葉なら読めるのかもしれない。

ガンディは、科学技術を「魔法使いども」と呼び、この「魔法使いども」こそが人類にあらゆる不幸をもたらすと非難した。また、こうも言っている。

「科学が人間の価値の基準となってはならず、ましてや技術が社会を支配するようなことがあってはならない。真の文明とは無制限の生産増大にあるのではなく、万人に必要な物を分与することを可能にするため、その意図的な制限はあるのだ」

ガンディのせいではないにしても、インドは情報通信システムの整備がかなり遅れている。遠隔教育は、学習内容を伝達する情報通信システムを前提としている。遠隔教育を成立させるには、最低限、郵便が想定される期間中に届くということが保証されなければならない。「インド国内では、郵便届くの10日かかることもある」という表現を聞いたので、通常、国内郵便の場合は10日もあれば届くということなのだろう。しかし、フォスターが言うところの「あらゆることが時間どおりに行われないこの国」インドでは、しばしば郵便が遅れるという事態が起こる。

学生へのインタビューでも、南に下るほどそういう苦情が出ていた。試験期間が来ても、まだ教材が届かないということがあらしい。2カ月も遅れたという事例を聞いた。IGNOUの郵便物の運配が、郵便事情の悪さ故なのか、IGNOUの郵送事務の遅さからなのかわからないが、



きわめて切実な問題であるようだ。郵便物の紛失も少なくない。『インドへの道』の登場人物の一人が言うように、「残念ながら、インドでは不慮の出来事というやつがちよくちよく起こる」。コート地域センターでは、教材が期日に届かない学生のために、教材を長期貸し出すサービスを行っており、そのための教材がかなりの数あったので、遅配の量がどれくらい多いのかを推測することができた。

一般家庭への電話の普及率はきわめて低い。IGNOUのオフィスでも、電話を勝手にかけられないようにするために受話器に鍵をかけている。例えば電話があったとしても不通になることが多いので、電話による通信があてにならないことは、身をもって経験した。

われわれがインドに着いた11月4日から、電話局の職員のストライキが全国的に始まった。11月23日にストライキは解除されたが、その翌日も、回線は復帰していなかった。11月24日の夜に日本にかけようとする、夜なので電話の予約をいれてから、4時間から5時間待ってもらわなければならないと交換手に言われた。ハイデラバードのホテルでは、日本に電話するだけで、ホテルの電話交換手に150ルピーの賄賂を要求された。ブバネーシュワルでは、ながらく連絡がとれなかった日本と何とか連絡しようと、毎日のように電話することを試みた。しかし、ことごとく失敗した。ホテルのフロントの説明では、ホテルの交換手がブバネーシュワルの電話局に国際電話の予約を入れておく。回線が開いた時に、ブバネーシュワル局の交換手が、カルカッタの電話局に電話して、国際電話の予約を入れておく。日本との回線が開いた時点で、逆のルートで電話が通じたことを、知らせるというしくみになっているらしい。物理的に電話できないなら、そう言ってくれといっても、ホテル側では国際電話はできるといいはる。かなり前から予約しておくに通じる可能性が高いと言うので、その通りした。一応カルカッタ局の交換手から呼びだしがあったが、音が小さくて聞き取れない。この調子ならば日本と話すことはおぼつかないと思っていたら、受話器を持ったまま5分くらい待たされた結果、案の定、日本とはつながらなかった。これで、ブバネーシュワルから日本に電話連絡できるといった淡い期待をもたなくなった。

ブバネーシュワルのホテルから私が国際電話を依頼するたびに、ホテルの交換手、ブバネーシュワルの交換手、カルカッタ交換手が日本につながうと、同じことを3回繰り返したことになる。質の低い基盤技術のために、こういった労働がすべて無駄になっている。また、電話を延々と待っている人間もいるのだ。インドの基盤技術の信頼の低さからして、こういった無駄になっている労働力は、計り知れないものがある。しかし、こういった無駄な仕事を作っているからこそ、多くの国民に仕事を分け与えることができると考えることもできる。それだけでなくとも失業率が極めて高いインドで効率を良くすれば、かなりのマンパワーが削減できてしまう。そうなると、失業率を向上させてしまうだけだ。

コートのインド国内航空のオフィスで、ジャイプール・ニューデリー間の2日後の飛行機の切符を購入しようとした時、4日前からでないと受け付けられないと言われた。聞いてみると、コンピューター・ネットワークがつながっているシャイプールまでテレックスを打って、そこで予約作業をして、またその結果をテレックスで受けて、発券作業を行うという。コートのホテル（ホテルという名称のイメージからはほど遠いものだが、一応ホテルと名乗っていた）では、ドルのTC（トラベラーズ・チェック）を受け取れないというので、TCを現地通貨のルピー

に換えようと思って銀行に行った。しかし、銀行でもTCは扱えない。他の街の同じ銀行では換えてくれたと言うと、通貨のレートがかわるシステムがコートまで来ていないので、できないという。つまり、コンピューター・ネットワークがつながっていないのだ。そんな高度なものではなく、ニューデリーとの電話連絡がおぼつかないのかもしれない。結局は、違法な闇の換銀に依存せざるをえないのである。

ニューデリーのホテルで比較的早く、日本とつながるホテルがあった。昼間はやはりだめだったが、早朝には数時間も待つことはなく、30分弱で日本とつながった。たった2度日本に電話しただけで、2000ルピーもの費用が取られた。インドの平均的なサラリーマンの1月の給与に相当する。賄賂を取られたときよりも、法外な金額の手数料と贅沢税が付いていた。インドでは国際電話が贅沢とはわかっているが、これだけの値段がかかるということは、存在していても使えないのと同じようなものだ。

同じ内容のサービスを、どこへいっても同じ質で同じ価格で提供するということは、現在のインドでは不可能である。そのことは、IGNOUの学習センターとして例外ではない。

ニューデリーでは、学習センターは週末だけでなく平日の夜にも聞かれているのに、ハイデラバードなどの大都市の学習センターでも週末の昼間にしか開かれない。よく停電になるのと、女性が夜一人で帰るのが文化的に容認されていないためであり、また危険であるという。インドの犯罪発生率が高く、それに性犯罪率もきわめて多い。確かに、ハイデラバードにいる間、一日に必ず数回の停電を経験した。日中なら自然光で学習が続けられるものの、遠隔教育となれば平日は夜しかなく、そのために停電は大きな障害となる。また、女性の社会文化的な規範や、犯罪率の高さなども無視できないことを感じた。

アメリカで勤労者のための遠隔教育機能を有したコミュニティー・カレッジが成功し、多くの女性を集めているのは、女性を目的地まで運び、かつ防衛手段ともなる自動車の発達と不十分ではない。

ハイデラバードのようなインドでも6番目に大きな都市でも、講師にふさわしい人材の不足を理由にオーディオやビデオの授業が多い。そして、そういった授業でさえ、停電に悩まされている。ハイデラバードでさえこのようなありさまなので、農村部ではおしてしるべしだ。オーディオやビデオのコースですらまならない。

地域センターでは、パーソナル・コンピューターでDbaseIIIを使い、学生のデータ管理や、郵送ラベルの作業を行っている。電源が落ちるたびに、それまでに入力したデータが消滅するため、入力し直すらしい。発展途上国では、こういったことはよくあるので、電源が落ちた場合も、保存するくらいの時間だけ電力を供給するアダプターを付けている場合が多いが、IGNOUの地域センターではそういうアダプターをつけていない。その点について質問すると、アダプターを購入するよりも、もう一度入力する労力の方が安価であるという。

#### フォスターによるインドの教育感

「彼の教養は本質的に都会的なものである」と評価されたE・M・フォスターのインド観察は、都会的であったためか、現在もほとんど修正すべき点はないように思える。しかし、一つだけひっかかるところがある。フォスターは『インドへの道』の中で次のように書いた。

「教育をそれ自身としてよいものと考えているインド人はきわめてまれであることを彼は知っていた」

この言葉は、副主人公でもあり、フォスターの分身ともいえるフィールディングに託して語った、フォスターの感想であり、フォスターが『インドへの道 (Passage to India)』を、ロンドンの南西にある小さな町、ウェイブリッジで書き終えたのが1924年である。フォスターがはじめてインドへ向かったのが1912年で、1921年にはデワスに行き、藩王の秘書となっている。ハイデラバードで、「インドへの道」の主人公のモデル、マスードと会う。

フィールディングは、この地方の官立大学の校長で、「言葉のうえだけの真実性を求める情熱を失い」、「もっぱら気分のうえの真実さを大事にし」、「こどもよりも思想を一つでもあとに残したい」と思うような男である。同性愛者であったフォスターは、フィールディングの口を借りて次のように語る。

「ぼくの仕事は『教育』だからね。ぼくは人々に個性をもった人間になれと教えることと、その個性を持った独立的人間を理解することの意義を信じている。ぼくが信じていることはそれだけなんだ。大学ではそれを幾何学などと混ぜ合わせているんだ」

40歳を越えてからインドに渡った生まれながらの自由人フォスターは、教育の力を信じ、教える相手を選ぶようなことはしなかった。「教育をそれ自身としてよいものと考えているインド人はきわめてまれであることを彼は知っていた」という文章の後に、次の文章が続く。

「そして、今このことを広い見地から悲しんだ」。しかし、彼のインド人の教育感については、現在では、修正の余地があろう。教育への要求は高くなっている。

## インドの高等教育

一部の階層での教育熱は、現在インドが資格社会であることと関係している。名刺をもらうと、学士号、修士号、博士号など、ありとあらゆる称号や資格を並べたてている。民間治療師まで「Dr.」の称号を付ける社会なので、部外者には、肩書きの社会的な信用度をおしはかることができないが、多くの人が称号を並べ立てているのを見ると、資格や肩書きがものをいう社会なのだろう。カースト制があったため、資格社会への移行は容易であったろうし、当然のなりゆきだったのかもしれない。

大学は本来の教育とか学習ということよりも、資格や称号を与える機関として期待されている。IGNOUに入学した理由を学生にインタビューすると、知識を深めるとか、教養を身につけるといった常識的な答がかえってくることはあるものの、よく聞いてみると、昇進や転機を考えての入学であることはが多い。IGNOUは資格授与機関になっており、こういったことはIGNOUばかりでなく、インドの高等教育全体についていえる。学生は資格さえとればよいといった感じが強い。ほとんど本を持っていない学生が、修士課程に進みたいという。本の数で人間を評価できないが、やはり資格がとれるならなんでもよいといった印象を受ける。ブバネーシュワルの学習センターで、「遠隔教育」のコースの学生の減少が話題になったとき、IGNOUが全体的に職業指向のコースが多いのに対し、「遠隔教育」がそうではないからだという意見が出た。IGNOUに入学を希望する者が、ウェイティング・リストに1万近く登録されているという。

また、インド人は抽象的思弁に秀で、数学能力が高いことでも知られている。1974年5月18日、インドは原爆実験を行い、世界で6番目の核保有国になっている。インドでは対象年齢の約6%だけが大学に進むが、人口が日本の7倍あるわけなので、粗っぽい計算をすれば日本の大学生とほぼ同数の大学生がインドにはいるということになる。この国では、人間の数がすべてを圧倒する。

高等教育や人材育成に計画性がまったくないため、せっかく高等教育を受けた人材が特定の分野に集中して、人材の遍在がめだつ。多くの学生がホワイトカラーをめざし、エンジニアなどが不足している。よく引き合いに出されるのは、看護婦1人に医者が2人ということである。大学に進めるくらい若者は、みんな医者になってしまうのである。そういった事態をまねいているのは、供与格差の極端な開きである。ちなみに、インドのかなりの数の看護婦は、給与の良いアラブ諸国に出稼ぎにいつてしまう。人材育成の要ともいえる学校教師の供与が大学卒としては低いので、優秀な人材は教師になりたがらず、必然的に教師の質が低くなる。

無計画な高等教育が歪みをもたしているものであり、IGNOUそのものが無計画とはいわないまでも、そういった無計画な高等教育の制度の中で、IGNOUが遠隔教育の本来の使命を果たすことは容易でないように思われる。

大学は身分格差を拡大するシステムであるという説があるが、インドほどその説に適合する国はないかもしれない。政府は高等教育に資金を費やし、大学の経費のほとんどは政府の援助である。そのため、授業料は私立も含めて極めて安い。ただ、貧しい階層では子どもは重要な労働力なので、学校に通わせることはできない。子どもの方でも自ら働かないと食べられないため、学校に通わない。そういった子どもたちを無理矢理学校へ連れていっても、空腹のため放心状態であるということも聞いた。『1945年以後』によると、1968年の時点でインドの子ども全体の中で、小学校を卒業できるのはわずか38%にすぎない。大学に進学できるのは、一部の豊かな層にすぎない。その豊かな層だけが進学する大学の授業料は、ほとんどただ同然に抑えられている。

インドに来た外国人は誰もが、商品にかけられている税金の高さに驚く。贅沢税の高さは、他の国の比ではない。外国から物を持ち込もうとすると、最低でも定価と同等の税金を取られる。こういった贅沢に貸せられた税金はともかく、貧しい者たちから取り上げた税金も、教育に関する限り、豊かな層を維持するための教育システムにつぎ込まれているのである。貧しい者は学校教育の恩恵を受けていないのに、彼らの税金は学校教育に使われている。

建て前上は教育の機会均等は保証されているが、実質的には、極貧を解消しようとしないうことで、教育の機会均等は保証されていないのも同然である。建て前上は否定されているカースト制度が存続していることはよく知られている。IGNOUの学長も、カースト制の上の者しかつけないと聞いた。開かれた教育を最大の理念とする遠隔教育の大学においても、人事はカースト制で規定されているのである。教育ほど人の選別理由に適するものはないため、名目上の「身分制度の廃止」を、教育が肩代わりしている。つまり、高い地位につくのは学歴のせいであって、身分制度ではないというすり替えがおこなわれている。しかし、高い教育を受けられるのは、高い階層の者に限定されている。教育は身分制度などの、既成の社会制度を改革するよりも、そういった制度を維持するために利用されている。

こういった大学制度で学んだ学生たちが、カースト制の均等な雇用に反対するのは当然であろう。1990年に、政権を放棄したラジーヴ・ガンディ政権を引き継いだシン政権は、身分制度の改革を推進し、政府の職業をすべてのカーストに開こうとして、低いカーストの出身者を採用する比率を大幅に引き上げることを発表した。すると、大学生が猛烈に反対して、8人の大学生が抗議の焼身自殺をとげた。一般に、大学生はリベラルだと思われているが、インドの大学生は、身分制度を維持する立場に立ったのである。この騒ぎの時、IGNOUの公用車が走行中に学生に襲われて焼き討ちにあっている。『インドへの道』には次のような文章がある。

「インド人には耐久力というものがない。ある些細な問題ではぱっと燃え上がるが、危機が来たときにはなんにも残っていない」

同じく『インドへの道』に書かれているように、インドでは高等教育を受けた人々は、閉鎖的なエリート集団を形成したがる傾向がある。「教育を受けたインド人たちは、絶えず訪問しあって、新しい社交の場という織物を、どんな苦痛を伴っても、織り上げようとしている」

### インドの遠隔教育

インドにおける遠隔教育高等教育は、1960年代初頭に始まる。デリー大学（University of Delhi）で通信教育が試行され、この実験は成功し、他の大学も遠隔教育手段をとるようになる。1985年までに31の伝統的大学で、通信教育を実施している。毎年約40万人が、こういった教育手段で大学教育を受けていると推定されており、その数は全大学生の11%にあたる。

1960年代には、Delhi（1962年）、Punjabi-Patiala（1968年）、Meerut（1969年）、Mysore（1969年）の4つの遠隔高等教育機関しか存在しなかったが、1960年代に遠隔教育という考え方が根付いた。1970年代に19の大学でInstitutes/Directorates of Correspondence Educationが開始され、Post Graduate Courseも始まった。1982年、Andhra Pradesh政府は、遠隔教育だけの大学であるAndhra Pradesh Open Universityを設立することを決定する。

1985年9月、インド政府は、以下のような目的からIndira Gandhi National Open Univrsityを設立することを決定した。

- (1) 公開大学と遠隔教育システムの促進。
- (2) そのようなシステムにおける教育の方法、評価、研究の基準を定める。
- (3) 知的資産を他大学や州立の高等教育機関に配分する。

整理すると、インドには次のような4種類の遠隔教育が存在していることになる。

- (1) 民間：資格を取るための民間の通信教育。
- (2) 伝統的大学の通信教育：一般の多くの大学に通信教育部門が併設されている。大学生の2割以上は通信教育の学生だといわれる。マドラスのあるタモル・ナードゥ州では、大学生の半数以上は通信教育の学生である。バンガロールの地域センターの男性秘書も、マドラス大学の商学の修士コースの通信教育を受講していると言っていた。
- (3) 州立の公開大学：インド国内に、Hyderabad, Kota, Pata（準備中）、Nasikの4つの州立公開大学がある。これらの大学は、地域の言語を使用し、IGNOUは特殊な例を除いて英語を使うことにして、住み分けをはかっている。
- (4) 国立の公開大学：IGNOUは、インドでただ一つの国立の公開大学というだけでなく、

インドの国立大学はIGNOUだけである。

### IGNOUの二重構造

結論からいうと、IGNOUは伝統的大学と遠隔教育大学を合成したものであり、伝統的大学と遠隔教育大学の二重構造を支えているのが、学習センターの「カウンセリング」である。

学習センターで開かれる面接授業は「カウンセリング」と呼ばれる。その名の通り講義が行われるのではなく、学生が疑問を持っている内容を明かにすることを主眼としている。カウンセリングの主旨や目的については、IGNOU側から「アカデミック・カウンセラー」と呼ばれる非常勤講師に徹底しているようで、どのカウンセラーも口を揃えて、カウンセリングは講義でないことを強調する。これは、カウンセラーのトレーニングも関係しているのだろう。アカデミック・カウンセラーのオリエンテーションをどの地域センターでも行っている。地域センターの長所などは、IGNOUのコースの一つである「遠隔教育」を取らなければならない。

私が見せてもらったいくつかのカウンセリングは講義形式で行われていた。ただ、人気のあるMBAやコンピューターのコースでは、学生の動機付けが高く、学生からの反応が非常に多かった。授業は非常に活発で、手もあげずに、どんどん発言していく。インド人は総じておしゃべりで、堀田善衛が「ことごとく閉口し、辞易した」有名な「強烈な自己主張」の国民であるため、こういった形式の授業に向いているのかもしれない。

バンガロールのアカデミック・カウンセラーは、あくまでもカウンセリングという言葉通り、教えるのではなく、分からない点を質疑応答するのだという。英語ができて優秀な学生をかかえた大都市では、そういつてられるのかもしれないが、小都市であるブバネーシャルではまったく異なる回答が返ってきた。質疑応答しようとする、講義をしてくれと学生が頼むというのである。

学習センターのカウンセリングへの参加は義務化されているのではなく、学生の自主性に任されている。この点に二重構造をつくりだす原因がある。学習センターでのカウンセリングは、1月に3回程度行われており、1回は2時間半である。ほぼ、伝統的大学における講義と同じ時間数だけ実施されており、カウンセリングに定期的に出席すれば、伝統的大学とほぼ同じだけの講義を受けられることになる。つまり、カウンセリングに定期的に出席できる学生にとっては、IGNOUは伝統的大学となんかわからない。つまり、彼らにとってはIGNOUで定時制大学、夜学なのである。われわれが面接した勤労学生で定期的に出席できる人間は、必ずといっていいほど、大学卒の高学歴で高収入で比較的高い地位にあった。そういった人は、余暇時間をきちんと取ることができるため、学習センターに定期的に通うことが可能である。B.D.P.では、遠隔教育にしては驚くほどフルタイム学生が多かった。

ニューデリーでは、こういう事例に遭遇した。土曜日に、ある学習センターでMBAのコースの学生にインタビューした。翌日、違う学習センターに行くと、前日面接した学生が、同じコースの、別のアカデミック・カウンセラーによるカウンセリング、つまり授業を受けていた。その学生は地位の高い軍人であった。ニューデリーのように複数の学習センターがある大都市では、学生は学習センターを渡り歩くこともできる。時間が自由になる高い地位についている人は、さらに高い教育を受ける機会が提供されているのである。

一方、これまでに比較的教育機会に恵まれない一般の人々は、学習センターに行きたいと思いつつも、行けない事例が少なくない。そういった人々にとって、やはり教育機会は恵まれないままだ。バンガロールで学習センターのカウンセリングにまったく出席していない学生にインタビューした時には、地域センターの職員がその学生に対して、なぜ学習センターに出席しないのかと激しく詰問する一幕もあった。学生は、仕事に追われて出席できないと答えていた。

また、同じバンガロールでカウンセラーとの会合をもったが、その時、忙しかったり、遠かったりして学習センターに來れない学生への、サービスの不平等をどう考えるのかと聞いたところ、カウンセリングは自主性に任されているのだから、來ない学生が悪いという答が返ってきた。この「自主性」が、INGOU のもつ二重構造の矛盾を正当化するための根拠となっている。

繰り返すと、学習センターに定期的に通えるエリート層には、IGNOU は休日や夜間に開かれている伝統的な定時制大学であり、学習センターに通えない条件を持つ人々にはIGNOU は通信教育にすぎない。それを大学教育を解放するという高邁な遠隔教育の概念で飾り、IGNOU は学習センターでのカウンセリングという名の定時制教育に多額の資金をつぎ込んで、エリート層に厚いサービスを施している。学習センターに通えない学生には教科書と課題が送りつけられるだけで、他に何のサービスも与えられない。こういった人々は、遠隔教育であることのアリバイに利用されているとしか思えない。通信教育の部分は、いわゆる「チープ・ディグリー」として放置されている。しかし、カウンセリングへの出席は自主性に委ねられているから、出席しない者の責任ということで片付けられてしまうのである。

IGNOU関係者の認識を単純化して図式化すると次のようになる。

#### 通信教育+なんらかのサービス=遠隔教育

つまり、通信教育に+αしたものが遠隔教育となり、+αとは付加的なサービスである。その付加的なサービスが、学習センターが提供しているサービスにあたる。IGNOU という遠隔教育とは、事実上、定時制大学に匹敵する。そして、そのサービスを受けられるかどうかは、IGNOU は学生の自主性に任せているという。遠隔教育は柔軟性に富むといわれる。しかし、学習センターのサービスを受けたくても受けられない者にとっては、IGNOU は単なる通信教育にすぎないのである。上の式はIGNOU では次のような式に読みかえることも可能である。

#### 教科書による予習+教室での授業=定時制教育

IGNOU は利益を受けてきた者に、より利益を与えるシステムとして作用しているように思えてならない。わずかな視察だけで即断は慎むべきだとしても、学生に会えば会うほどその感を強くした。フォスターが『インドへの道』に書いたように「人々は、すでに持っているものをさらにまた手にいれるのが世の常」なのだ。INGOUですらも、階層差を固持し、さらには階層差を広げる役割を担っているようだ。

IGNOU 自体でも、二重構造を積極的に利用しようという傾向が見られた。MBA など人気の

高いコースの学生になるには、試験を受けなければならない。最初から選抜されている。選抜されてくる人間は優秀で、都市部などに住んでいる可能性が高い。IGNOU の関係は、MBA を大学でも最も権威のあるコースだといっばいではない。優秀な学生をひきつけて、それを IGNOU のイメージとして使おうとしている。インタビューの際は、MBA のコースの学生に会わせようとした。しかし、どの学生も、ほとんど同じ特性、つまり、エリートであり、高い動機付けをもっていた。MBA のクラスは、多くの学生がつめかけていた。服装からして、他のクラスの感じとは異なる。

### 学習センター

IGNOU は、学習センターにしても、学習センターを統括する地域センターにしても、建物はすべて州政府からの無料供与を受けたものである。学習センターは、協力を申し入れてきた機関を視察して、学習センターにするかどうかを決定する。多くは、州政府が保有している州立大学の施設を使っている。コート地域センターのように、州政府が民間の建物を借り上げてまで、無料で使わせている事例もある。ただ、コート地域センターは、数カ月内に州都であるジャイプールに移転する予定である。コートに地域センターを設けたのは、コート公開大学との関係を配慮した政治的判断からである。

州立大学が学習センターを引き受けると、VCR、TV、書籍、パーソナル・コンピューターなどの備品が提供されるほか、学校長がセンター長を兼務して、IGNOU から給与が支給されるという恩恵がある。VCR やパーソナル・コンピューターは、インドでは極めて高価な物品である。

学習センターで提供するサービスは、センターが設置されている地域の条件によって大きな差がある。地方の学習センターでは、すべての教科のカウンセラーを確保するということが難しいために、B.A. のコースだけを提供している場合が少なくない。IGNOU の学習センターの多くは州立大学の中にあるので、学習センターへの出席という距離的問題に関する限り、結局は州立大学の通学圏と同じになる。ブバネシュワルの学習センターでは近郊の学生がほとんどで、遠隔地の学生の出席はほとんど望めないという話を、アシスタント・コーディネイターから聞いた。つまり、州立大学で授業が行われていない時の遊休施設を使って、授業をやっているだけだともいえる。遠隔教育でも、都市部に住まないという教育機会に恵まれないという、伝統的大学と同じ問題をかかえこんでいるのである。

これまで高等教育の恩恵をこうむらなかった農村部こそ、遠隔教育の真価を発揮するところであるということが当然考えられる。しかし、農村部ではアカデミック・カウンセラーの確保すらままならない。この点でも IGNOU の教育方法は、都市部と農村部は教育機会の均等を達成できないという矛盾がある。学習センターがない地域には、モーター・バンで学習センター機能の出張サービスの計画があるらしい。

カウンセラーは、10年以上の教育歴を持つことを条件に学習センターのコーディネイターを選定し、地域センターでさらに検討し、資料を本部に送付し、本部で検討のうえ認定する。学習センターのコーディネイターが集まる会合（All India Coordinators Conference, Madras）では、適切なカウンセラーの選択が重要であるという意見が出ていた。裏返せば、適当でない人



がカウンセラーになっているということであろう。IGNOUの本部で選ぶときには学術的業績しか見ないので、研究者としては優れていても、教師としては劣っている者が選ばれることがあっても、逆の場合はないという意見も出ていた。

バンガロールでは、MBAコースのカウンセラーには、2時間のカウンセリングで200ルピー、それ以外のコースでは100ルピーの謝金が支払われる。いずれの場合も、30ルピーの交通費が支給される。この点については、学習センターのコーディネイターの会で、20キロメートル先からくる人と4キロメートル先から来る人と、なぜどちらも同じ交通費なのだという質問が出されていた。

学習センターの職員数は、訪問したところはすべて20名であった。調査を行った1990年11月の段階で、学習センターの数は160を越え、カウンセラーは6000人に達している。学習センターが抱える問題について質問してはみたが、それこそインド人特有の論理による回答しか得られなかった。現在は最終目標の500にいたる過程であるため、いろんな問題があることはわかっているが、発展途上にあるために発生したことで、本意ではないという。そして、学習センターの数が500になった暁に、いろんな問題点について指摘し、質問してほしいという。

160以上の学習センターを維持するのは、たいへんな努力だと思う。しかし、インドは日本の面積の8.7倍の広さをもつ国である。日本と同じ比率でいうと、インドには500ほどの県があってもおかしくない。つまりインド全土に160あまりの学習センターがあるということは、日本では言えば数県に一つしか学習センターがないということに相当する。その上に公共交通機関は日本ほど整備されていない。これでは、均等な教育機会を提供しているとはいいがたい。学習センターに通える者には、極めて厚いサービスを提供しているからこそ、よけいにそういう印象を持つ。落ちていく者はそのままにして、延びていくものだけを引き上げるという教育システムに徹しているのかもしれない。最終的に500の学習センターをもったとしても、日本の1県に一つの学習センターと同等なのである。

学習センターの出席率の悪さは常に指摘されていた。経営学のあるアカデミック・カウクセラーなどは、教科書ですべて理解できるので、学習センターには来ないのだと言っていたが、それはどうだろうか。というよりは、教科書からしか試験問題が出ないので、教科書を読んでいたらいののだと言い換えた方が正確だろう。

われわれが、今回の調査で接することができたのは、定時制大学としてのIGNOUだけであり、通信教育大学であるIGNOUについて、ほとんど触れることができなかった。外国の研究者が限られた中で、教育活動のじゃまにならない程度で学生にインタビューできるのは、学習センターのカウンセリングに参加しているところを、時間をとってもらいインタビューすることくらいしかできない。また、広大なインドで、公共交通機関があり、電話で連絡できる範囲で学生に接するのは、地域センターに頼らざるをえない。その電話ですらあてにできないのだ。

学習センターに通えない学生の把握は、IGNOUではやっていないようだ。IGNOUの教育は、あくまでも学習センターに通っている者を前提として構築されている。そうして学習センターに通っている学生は、コースにばらつきはあるものの、IGNOUの学生の大半ではなく少数に属するのである。

## イギリスの影響

安政4（1857）年、アメリカ領事ハリスが、堀田備中守の役宅で述べた口上書には、次のような箇所がある。「イギリスが日本と戦争いたし候儀を好んで心がけやり候」。「シナ」の失敗を上げたハリスの口上書を、島崎藤村は『夜明け前』の中でつぎのように要約している。

シナ戦乱の基と言え、その一つはアヘンである。アヘンは英領東インドの産するところ。そのアヘンがシナの害になっても、英国では利益のためにすこしもそれを禁じようとしな。右のアヘンを積み載せた船には、鉄砲などを堅固にそなえ付けて置いて、ひそかに売買する。合衆国大統領が日本のために考えるに、アヘンは戦争よりも危ない。アヘン交易には日本でも格別注意するようにと大統領も申している。万一、アメリカ人がアヘンを持参したら、日本の役人が焼きすてようと、どうなりと取り計らわれたい。そんなアヘンは焼き捨てた上で、過料を取られても決して苦しくない。

またハリスはつづけていわく。

「ただいま東インド一円はイギリスの所領と相成り候えども、元来は数カ国に分かれており候ところ、いずれも西洋と条約取り結ばざりしたため、ついに英国に一統いたされ候」

イギリスのインド統治のやり方や阿片の使い方などを見ると、イギリス人は白人以外は人間とは思っていなかったようにとれる。その残滓は、現在でも南アフリカに見られる。

SF 作家、アーサー・C・クラークは『幼年期の終わり』に、イギリス人としてインド統治をどのようにみているかを、次のように漏らしている。

「19世紀の教養あるインド人が、英国の統治を、静観しつつも感じただろうおなじものを感じていた。侵略者たちは地球に平和と繁栄をもたらした——が、その代償がいくらにつくか、いったいだれが知っているのだ。歴史は安心を与えてくれなかった。非常なかけはなれた文化水準にある種族間の交渉は、たとえそれがどれほど平和的であろうと、結局は後進社会の抹殺という形で終わることがままあるものだ。とても太刀打ちできそうにない敵から挑戦を受けて気力を失うのは、国家でも個人の場合とまったく変わらない」

クラークは、イギリスの統治を受けたインドは、伝統的社会を崩壊させ、国家も個人も無気力になってしまったという。その真偽はともかく、イギリス統治時代のことが、現在でもインド人の心に深い傷を残していることは間違いないし、それがイギリスに対する憎悪と憧れの相反する感情を生んでいることも確かである。

地域センターのほとんどの所長が、イギリスの公開大学（UKOU）を訪問した経験をもっている。IGNOU が、いかにイギリスの公開大学から強い影響を受けているかという証拠である。IGNOU のロゴ・マークまでも UKOU に似ている。教材の開発システムは、ほとんどそのまま移植しているといってもよい。インドに限らず、いまもってイギリスの公開大学がアジアの多くの遠隔教育大学の手本となっている。それは、多くの遠隔教育の大学が大学名として Open University と命名していることからわかる。

Indira National Open University（インド）

Allama Iqbal Open University（パキスタン）

Universitas Terbuka（Indonesian Open University）（インドネシア）

Sukhothai Tammathirat Open University（タイ）

一方で、インドでは何事によらずアジアについて無関心で、日本のことは経済のことや電子製品のことしか知らない。そのため、白人以外には、一般に高圧的で威圧的であり、時として侮辱的な態度をとることさえある。自らをヨーロッパ文化に属し、日本はアジア文化に属すると言ったIGNOUの関係者もいた。謙虚に外国の経験から学ぼうという態度はまったく見られないし、アジアについてはその傾向が特に強い。

IGNOUの学習センターで、Ph.D.をもつスタッフと雑談した際に、サタジット・レイの映画について、私が日本でも高く評価されていると言うと、彼は日本の映画はインドでも人気があるというので、どういう映画だと尋ねた。すると、ジャッキー・チェンのカンフー映画のことだった。日本人も東南アジアについては何も知らないの、こういったことは笑えないにしても、日本については片寄った知識しか持っていない。

## 教 材

どの国においても、遠隔教育の大学は伝統的な大学よりも低く見られているが、インドでも同じであることを、アンデラ・プラディシュ公開大学の関係者から聞いた。インドで唯一の国立大学であるプライドの高さも手伝ってか、IGNOUの教材は、他の大学に比べても極めて高い水準を維持している。それに、単位認定についても試験はきびしく、落第する者が多いと聞いた。これは一旦、あの大学の資格や学士号はいいかげんだいということになれば、それが大学の評価となるため、水準を高く維持する努力をしているという説明を受けた。しかし一方で、エリート教育をしている弁明とも受け取れなくはなかった。インタビューした学生の中には、伝統的大学で入試試験に落ちたため、IGNOUに入学したという者もいた。教育の大衆化と教育の質の向上は、これまでの歴史が示しているように、かならずしも相入れないものではないが、対立する場合が少なくない。

IGNOUの二重構造からして、学習センターに通っている学生と通えない学生の試験の通過率を調べたいと思ったが、そういうデータはないという。しかし、たくさんの学生が試験に落ちること認めていた。課題の提出率が、1988年は60%であったものが、1990年には30%にも低下した。これは、日本の放送大学にもみられた初期効果ではないかと思われる。試験も含めると、さらに低下すると思われる。日本の通信教育大学の卒業率は5%といわれており、通信制の大学はそのことをみこして経営を行っているという。入学した学生が全員、卒業まで勉強を続けると、経営が成り立たないようになっている。IGNOUではそういうことはないにしても、ドロップアウトはかなりの数になるにちがいない。

しかし、IGNOUではドロップアウトの概念を執ように否定し、ドロップアウトがあること自体を認めようとはしない。学生は8年間で卒業しなければならないため、8年経ってみなければ分からないという。IGNOUが試験的に学生を受け入れてから、まだ数年しか経過していない。これも、インドらしい弁明であった。

教科書は、学生もアカデミック・カウンセラーも口を揃えて素晴らしいという。しかし、素晴らしい教科書が引き起こす弊害についても聞くことができた。確かに水準は高すぎる。学部向けの教科書でも、地方大学では修士課程や博士課程の程度に匹敵するという。高い水準について、ブバネーシュワルの学習センターのアカデミック・カウンセラーの意見が印象的だった。

IGNOU の教科書は「世界レベル」で「Research standard」かもしれないが、「地方大学レベル」ではなく、あまりにも高い水準でかつ内容がもり沢山の、非現実的だというのだ。

IGNOU は、遠隔教育の水準を示すという目標を持っているが、目標が高く設定されすぎていくらいがないでもない。英語という言語を使っているため、世界中でIGNOU の教科書の顕在性はきわめて高い。要するに、世界中の誰にでも水準を査定されることを覚悟しなければならない。そのため、高く維持しているとも考えられる。また、イギリスの公開大学の影響を強く受けているため、形式だけでなく水準の面でも比肩させようとしているのかもしれない。

同じことは、ビデオ教材やオーディオ教材を制作しているプロデューサーの口からも聞いた。番組に出演している講師に番組の内容を任せていると、いくらでも内容を高度にしてしまい、学部学生の教材なのに博士課程の学生にも難しいような内容になってしまう。こういった事態は、IGNOUならずとも、各国の遠隔教育の機関では陥りやすい過ちとしてよく報告されている。教育内容を公開すると研究者の目にも触れるため、どうしても内容が高度になる傾向がある。こういったことは、教科内容を決める学者本人が出演する弊害であって、アメリカやイギリスのように、学者本人ではなくアナウンサーや俳優が演出すると、学者の威信も傷つけず、内容の程度を適切に保つことができるが、一方で学者の学問に対する情熱といったものが伝わらないという欠点もある。

既に述べたように、IGNOU と州立の公開大学は言語で住み分けをしているが、教育の大衆化という点ではIGNOU は問題を抱えていると言わざるをえない。インド人だからといって、英語がみんなできるわけではない。ブバネーシュワルのアカデミック・カウンセラーは、自分もBBCの英語のニュースがよく理解できないくらいで、分からない英語でどうして教えたらいのかと語っていた。インタビューした学生の中には、英語がほとんど分からない者がいたし、コーディネイターの大会では、ビデオ教材とオーディオ教材の英語の問題が提起されていた。さらに、各地で英語の訛りが大きく異なっており、その英語でないと通じにくい。IGNOU の英語教材は、洗練された英語であるため、学生が聞き取れないという。そのために、解説やナレーションはもっとゆっくりやってほしいという要望も、コーディネイターから出ていた。

この問題は、ラジオやテレビが普及した暁には解決されるかもしれない。全国放送は、英語とヒンディー語で行われている。そのため、ラジオを持っている人は、少しずつ標準的な英語や、ヒンディー語が理解できるようになっているという。

学生にオーディオ教材を聞かせたり、ビデオ教材を見せても退屈してしまう。それには二つの理由がある。一つは英語が理解できない。ブバネーシュワルの学習センターのアシスタント・コーディネイターは、BDP コースの学生にBBC の英語ニュースを聞かせて理解できるのは、半数だろうと言っていた。理解できないので退屈してしまう。もう一つは、オーディオ教材もビデオ教材もよくできているものの、試験問題は教科書から出るので、学生が教科書の分かりやすい解説を望む。もし、カウンセリングの間にオーディオ教材やビデオ教材をいつも流すようになると、学生は出席しなくなるだろうと言っていた。資格社会インドでは、あくまでも試験に通るのがIGNOU の学生の目的である。

学習センターは、希望する学生にはオーディオ教材のコピーのサービスをしている。学生の都合の良い時間にビデオ教材を見せるようにしたらどうかと質問したところ、機器の操作が

難しいという。IGNOU は ETS という機関を通して、オーディオ教材を 1 本 25 ルピーで、ビデオ教材を 1 本 100 ルピーで一般に販売もしている。

ET&T Corporations Ltd.(A Govt. of India Enterprise)

15/48, Malcha Marg, Chanakyapuri, New Delhi 110 021

Phone 3010672

ビデオ教材は年に 100 本ほど、オーディオ教材は 150 本ほどを製作していると聞いた。あるプロデューサーは機械的に作っていただけだと自嘲的に語っていた。日本の JICA からの援助で、ポスト・プロダクションの最新の機材が IGNOU に寄贈された。

どの学習センターでも図書が足りないところばす。コーディネイターの会議で、学習センターの図書としてヒンディー語の本はいらないから、他の本を揃えてほしいという意見が出ていた。さらに、モニターテレビの数が少ないので、増やして欲しいという意見もあった。

インドではテレビは国営放送のみだが、宣伝が入る。午前 7 時から放送が始まり、1 時間のモーニングショーのあと休憩といったように、何度も休憩が入る。教育番組が多い。UGC (University Grant Commission) に与えられた時間があり、大学教育のテレビ番組がある。IGNOU は放送番組を使用していないが、イギリスの公開大学をモデルにしている IGNOU では、イギリスの公開大学なみの放送時間の確保をめざしている。しかし、「世界中」の遠隔教育でのテレビ番組の依存度が低下していることと、テレビ番組が一方方向で双方向でないことをあげて、ビデオカセットの貸し出しの方が有効であるという意見が強かった。IGNOU の関係者がいう「世界」とはイギリスのことで、「世界中の遠隔教育」とは英国の公開大学のことであった。公開大学の放送時間の減少については、IGNOU だけでなく、州立の遠隔教育大学の関係者の口からも聞いたし、また、そのことをしきりと引き合いに出す。インドでは、放送を使えないことの正当性を証明するものを意図的に探しているふしさもあるように感じた。

IGNOU の関係者は最初のうちは、日本の放送大学についても関心をもって聞いてくるが、放送電波を専有していると知ると、それでほとんどの人は関心をなくしてしまう。日本の放送大学は発展途上国の状況とあまりにもかけ離れた巨大なシステムであるがゆえに、まったく参考になる点がないと思うようである。

インドではハリウッドに匹敵する本数の映画を製作しており、現在でも庶民の最大の娯楽である。レンタルビデオの普及が急速で、富裕な家庭ではレンタルビデオの方が映画を見る方法として主流になりつつある。何度も、「ガンジー」を見たかと尋ねられた。ガンディは子どもの教育には失敗したといわれており、アル中になったガンディの長男のことを聞くと、多くの人が気分を害したようだった。ガンディの批判者はすぐにそういうことをもちだすが、彼の息子はいい人だと言い張るのだ。

インドの農村部では、ラジオですらまだ普及しておらず、いまだに主要なメディアは、紙媒体であるという。しかし、識字率が 50% を越えていないこの国では、その紙メディアでさえここもとない。

終わりにあたって

われわれがインドに到着するとすぐに、政権を率いる政党が二つに分裂し、政権が交代した。

全国的なストライキに入り、交通機関が全国的にストライキに入り、止まってしまったこともあった。カーン氏がいうところの「インド独立後、最大の政治危機」のさなかに、IGNOUを調査しなければならなくなった。

われわれがインドに到着した11月4日から、電話会社の交換手のストライキが始まった。ニューデリー、ボンベイなどは、100ルピーの賃上げで決着がついたが、他の地域はストライキが続いていた。そのために、ダイヤル直通以外は長距離電話がかけられない状況の中で、インド中を移動しなければならなかった。マドラスにいたっては、市内の電話まで不通になり、救急車すら呼べないといわれていた。そのため、十分な打ち合わせどころか、連絡さえとれないことが多かった。国営の電話会社のストライキで、インド全体をカバーしている通信衛星網も不通になり、飛行機の発券業務を行うコンピューター・ネットワークがほとんど機能を停止した。そのため移動する度に、飛行機の予約について1日以上かかることになった。ニューデリーでは、予約確認のためだけに飛行機会社や国内航空の事務所をたらいまわしされて3日間を費やした。

日本で予約していったチケットはすべてキャンセルされ、ニューデリーでも、コンピューターの調子が悪いといって、直前の便しか予約できず、オープンのままで購入した。移動の度にインド国内航空の予約カウンターで予約しようとしたが、コンピューターが動いていないということで次の街でやってくれと先送りされた。バンガロールで確認しようとする、地域センターの職員がやってあげるといっているので頼んだものの、またすべてのチケットが取り消されていた。翌日確認したところ、前に取り消されてしまったデータがそのまま残っていて、古いデータを見ていたのだった。コンピューター・ネットワークが完全に止まってしまったため、帰国の便の確認もできず、一時は帰国が危ぶまれる事態になった。そのために、どのような処置をとってよいか放送教育方発センターに打診しようにも、電話が不通であるため日本と連絡できず、どうしようもなかった。

不思議なことに全国的にこういった事態に至っても、テレビのニュースでは一切報道されていなかった。電話は通信省（Ministry of Communications）が運営しており、テレビ放送は情報放送省（Ministry of Information and Broadcasting）の管轄で、両方とも国営に事業であるため、電話局のストライキについてテレビのニュースでは放送しなかったのだろうと思われる。新聞も、ときたま忘れていたかのように報道するものの、その扱いは極めて小さい。そのため、どのような状況になっているのか把握できない。11月21日に発表された新しい内閣では、チャンドラ・シェーカー首相が、情報放送大臣を兼任することになっていた。

IGNOUの体制が流動的であるため調査に支障をきたした。学長が交代したばかりであり、トップダウンで事柄が決まっていくインドの組織としては、人事のことで組織が変わりつつある段階で、部外者の対応などをしておれないということなのであろう。それ以上に支障をきたした問題は、IGNOUが卒業生をまだ出していないという事実であった。1986年の準備期間は別にして、1987年から始まった。学生は8年間の猶予があるため、ドロップアウトや、学習センターの出席率の低さなどの、遠隔教育上の問題点を質問すると、どこで聞いても1995年になるまでわからないという答しか返ってこなかった。それが、すべての解答となるために、実態を把握する上での障害となった。

また、この調査と平行してパキスタンでも調査していることが、IGNOU 関係者の心情を害したことも挙げなければならない。インドでは、反パキスタン感情が現在でも強い。インドとパキスタンの分割時に起こった惨劇の記憶は、多くの人びとに癒しがたい傷痕を残している。それまではなんとか共存していたヒンドゥー教とイスラム教が、分割を期に、異教徒を殺すほど神に近づけるといって虐殺を続けた。さらに、シーク教徒は殺りくに狂い、残虐非道な行為を行い、誇り高い民族の歴史に消しがたい汚点を残した。

1990年3月に事前調査のためのパキスタンに行ったときは、ある大学教授から、インドからパキスタンに移動する時に家族全員を殺され、無数に広がる死体をふみわけて無一文でパキスタンにたどりついた話を聞かされた。イスラマバードの博物館では、虐殺のありさまを描いた壁画を見せられた。今回は、逆にイスラム教徒に家族全員を殺された人が、同じような話をしてくれた。こういった記憶をもっている人がまだたくさん生存し、かつ宗教的偏見が加味されているため、両国の敵対感情はいやしがたいものがある。パンジャブは、現在でも散発的に戦争を行っている。東パキスタンがインドの支持のもと、バングラデッシュとして独立した問題など、両国は1947年の分割以来つねに敵対してきた。両国がホッケーの試合で顔を合わす度に、選手同士が暴力をふるうことはよく知られるとおりである。それくらい、敵対感情を持っている。

同じ時期に、IGNOU とパキスタンのアラバ・イクバル公開大学を調査していると言うと、敵対状態にある両国を比較しているようで好ましいことではなかった。説明はしたものの、「比較研究」という名前を使っている以上、IGNOU としてはパキスタンと比較されるととったようだ。

パキスタンと比較されるのなら負けられないという感情が、優秀な学生だけにしか合わせないという結果を招き、インタビュー中は、IGNOU の関係者が監視するがごとく学生にぴったりと密着して座っていた。われわれだけで質問させてくれと頼んではみたが、数分もするとともにどってきて同じ状態になる。そして、地域センターの職員が学生の回答を誘導し、はなはだしき時には学生の代わりに質問に答えてしまう。調査方法の基本は知っていてしかるべき博士号を持った人たちが、そうするのである。

雑誌「SFマガジン」の読者が選んだSF史上のベストテンで第一位（1989年2月号発表）に選ばれたロバート・A・ハイラインのSF小説『夏への扉』でも、この問題がとりあげられている。「ロサンゼルス・タイムズ」を連想させる『グレート・ロサンゼルス・タイムズ』という新聞の2000年12月13日水曜日の朝刊に、さまざまな記事に混じって「パキスタン、インドに警告」という見出しが載っている。ハイラインは、2000年になってもインドとパキスタンの対立は続くと考えているのだ。この小説が書かれたのが1957年であるため、ハイラインの予測は残念ながらも的中しつつあるといえよう。

インドでの調査先は、カーン氏と相談して決めた。しかし、「暴力と蛮行にかけては右にでるものはない大都市」と『今夜、自由を』で称されたカルカッタは避けることにした。かつてカルカッタは「この世の地獄」ともいわれ、「この世ながらの地獄とはカルカッタの貧民窟に不可触賤民として生まれることだ」とさえ書かれている。『今夜、自由を』は、この都市を次のように描写した。

「無数の賤民が悪臭を放ちつつウジ虫のようになごめいているその貧民窟、混雑で湧き返るようなそのバザール、そういう場所がいたるところにあるこの大都会（カルカッタ）には、たとえどれほど大きな警察力を投入したとしてもとうてい治安維持は覚束ないのである」

カルカッタについては、アントニオ・タブッキの『インド夜想曲』にも、その恐ろしさに間接的に触れた箇所がある。主人公の男性はゴアのホテルで、カルカッタから着いたという女性カメラマンと次のような会話をする。

「カルカッタでなにをしてたの」

「人間の惨めさを写真に撮ってたの」クリスティーヌはこたえた。「悲惨、零落、戦慄をもよおすもの、どう呼ぶのもご随意だけれど」

（略）

「あなたはカルカッタに行ったことあるの」

僕は首を横にふると、彼女は言った。「行かないほうがいい」クリスティーヌは言った。「まちがっても行ってはだめよ」

クリスティーヌの忠告に従ったわけではないが、カルカッタには「まちがっても」行かなかった。

訪問できる場所が限られていたため、われわれは学習センターに通っている学生にしかインタビューできなかった。つまり都市部に住み、学習センターに通うことができる学習意欲の高い学生だけに会ったにすぎない。なおかつ、われわれが引き合わされたのは優秀な学生にほぼ限定されていた。悪意からそうだったというのではなく、外国から来た研究者にできるだけ良い面を見てもらおうというのは、人情として理解できる。IGNOUの学生の大半は都市部に住んでおり、農村部に住む学生は極少数である。ハイデラーバードを例にとると、農村部の学生は1割にすぎない。

12月3日に試験が始まるため、われわれの調査が終わりに近づいた頃には、アカデミック・カウンセリングは終了していた。

以上のような条件が、調査を歪めてしまったのではないかと恐れている。『インドへの道』から数多くの引用をしたが、やはり同じ本からの引用で、この報告を終えようと思う。ボンベイからイギリスに帰国するムア夫人は次のようにつぶやく。「わたしは見るべきところを見なかった」



付録：参考のためのインドの簡単な歴史、データ、主な訪問地の概要を挙げておく。

## インド史略

|               |   |
|---------------|---|
| B.C.1500年頃    | アーリア人の北西インド移住。  |
| B.C.486年頃     | 仏教の開祖、仏陀入滅。   |
| B.C.477年頃     | ジャイナ教の開祖マハーヴィーラ没。                                       |
| B.C.327年頃     | アレキサンドロス王が北西インドに進入。                                     |
| B.C.268～232年頃 | マウリア朝のアーショカ王の統治。  |
| B.C. 2 世紀     | サーンチーの第 2 塔、アジャンターの第10窟などが建造される。<br>紀元前後のサーンチーの第 1 塔建造。 |
| A.D.78年頃      | クシャーণ朝のカニシカ王の統治。  |
| 2 世紀          | ガンダーラ美術、マトゥラー美術の隆盛。                                     |
| 320年          | チャンドラグプタ 1 世がグプタ帝国を興す。                                  |
| 5 ～ 6 世紀      | アジャンターの後期石窟の造成。   |
| 628～645年      | 玄奘三蔵がインドに旅行。  |
| 8 世紀          | エローラのカイラーサナータ寺院造成。                                      |
| 1206年         | アイバクが、インドで最初のイスラム教徒による王朝をデリーに樹立。                        |
| 1225年         | デリーにクトゥブ・ミーナールが建設される。                                   |
| 1396年         | グジャラート王朝興す。   |
| 1398年         | ティムール、中央アジアからインドへ侵入。                                    |
| 1562年         | バーブルがデリーでムガル王朝を興す。                                      |
| 1556年         | アクバルがムガル第 3 代皇帝に即位。                                     |
| 1568年         | アクバル帝、ラージプート族のチットールガル城を攻略する。                            |
| 1600年         | イギリス東インド会社が設立される。                                       |
| 1605年         | 第 4 代ムガル皇帝にジャハーンギール即位。                                  |
| 1628年         | 第 5 代ムガル皇帝にシャー・ジャハーン即位。                                 |
| 1651年         | タージ・マハル廟が完成。  |
| 1658年         | 第 6 代ムガル皇帝にアウラングゼーブ即位。                                  |
| 1674年         | 中部インドにヒンドゥー教徒のシヴァージーがマラーター王国を興す。                        |
| 1774年         | イギリス人のヘースティングスが英領インドの初代総監に就任。                           |
| 1857年         | 「セポイの反乱」起こる。  |
| 1858年         | ムガル帝国滅亡。  |
| 1912年         | 英領インド帝国の首都がカルカッタからデリーに移る。                               |
| 1930年         | ガンディーが「塩の行進」によって不服従運動を開始。                               |
| 1947年         | インド独立を宣言。インド連邦とパキスタン自治領が分割。                             |
| 1950年         | 新憲法を施行し、インド共和国が発足する。                                    |

## インドの概要

|       |  |
|-------|--|
| 正式国名  | Bharat Ganarajya (Republic of India)   |
| 面積    | 328万7263キロ平方メートル（インド支配下のカシミールを含む）<br>日本の約8.7倍                                    |
| 人口    | 8億4000万人（1990年）<br>21世紀には10億を突破し、中国を抜いて世界一になると予想されている。<br>日本の約6倍                 |
| 人種    | トルコ・イラン、インド・マリア、スキト・ドラヴィダ、アーリョ・ドラヴィダ、モンゴロイド・ドラヴィダ、モンゴロイド、ドラヴィダの7種。               |
| 言語    | 1967年の公用語法でヒンディー語を公用語とした。このほか、憲法では14の言語が地方語とされている。実際には845の言語・方言があるとされている。文盲率は6割。 |
| 政治    | 連邦共和制で、議会は二院制である。元首は大統領で、首相は大統領に任命されるという形式をとっているが、実際は首相の方が実権を握っている。              |
| 国民総生産 | 1957億1507ドル（1985年）。一人あたりの国民総生産は261ドルで、日本の85分の1。                                  |
| 教育    | 学制は小・中学校は10年、高校2年、大学3年、大学137校、大学生300万人。  |

## 主な訪問地の概要

### ニューデリー（New Delhi）

インドの首都デリーは、ガンジス河の支流ジャムナー川のほとりに古くから栄えた都市である。現在、人口ではインドで3番目の都市である。デリーの北150キロメートルにあるクルクシェートラは、インドの古代叙事詩「マハーバーラタ」に登場する古戦場。古くからヒンドゥー文化の繁栄した地域だが、11世紀以降北西からイスラム教徒の侵略を受け、13世紀以降はデリー・サルタナットと呼ばれる幾多のイスラム王朝が興亡を繰り返してきた。現在オールド・デリーと呼ばれる旧市街には、17世紀半ばムガル王朝第5代皇帝シャー・ジャハーンが建設したもの。その後、ムガル帝国に代わってイギリスがインドを支配。その植民地政府をカルカッタにおいて君臨した。1911年にはデリーに政府を移し、新たに計画的に市街を建設、大英インド帝国の首都とした。これが現在のニューデリーと呼ばれる地域である。長い独立闘争の末、1947年、インドは独立を宣言。以降、新興インドの首都となっている。

### ハイデラバード（Hyderabad）

デカン高原のほぼ中央にあり、南インドでも最もイスラム色の濃厚な伝統的な商業都市。人口20万の約半数がイスラム教徒。町中には黒いチャドル姿の女性が目だつ。16世紀以来、クトゥブ・シャー家によって統治され、1724年にはハイデラバード藩王国（ニザーム朝）が誕生。領土内で真珠やダイヤモンドが採れたことから、インドで最も裕福な都として繁栄を極めた。現在ではアーンドラ・プラデーシュ州都。北隣の行政・経済都市シカンダラバードとともに、新興工業都市として発展しつつある。インドで6番目の大都市。

#### アーンドラ・プラデーシュ州の概略

面積は27万6814平方キロメートルで、人口は約5300万人。公用語はテルグ語。南インドで、もっともイスラム教の影響が強い地域。インド随一の米どころとして有名。バージニア・タバコの生産高は全インドの90%を占めている。バンジャラやバガダ、バルミキ、チェンチュなど多くの少数民族が住んでいる。

#### バンガロール (Bangalore)

標高920メートル、デカン高原南部に位置するカルナータカ州の州都。インドで5番目の大都市。南インドで最も近代化されたインド有数の産業都市。1537年、領主ケンペイ・ガウダが要塞を建てたのが町の始まり。後にマイソール王国の武人ティプ・スルターンが、城の改築や公園作りを手がけ、美しい町並みを築き上げた。独立後はボイベイと結びついて飛躍的に発展した。現在、バンガロールは、インド最大の時計工場や唯一の国産ジェット製造工場をはじめとして、通信機、工作機械、電子機器などの工場を有する精密機械工業の一大中心地となっている。通称ボンベイ・ハイウェイと呼ばれる大動脈国道4号線を4車線にする工事が進行中。人口はこの10年間で2倍になり、450万人に達した。将来、アラビア海のマンガロールに近代的な港湾設備が拡大されれば、ボンベイに次ぐ産業都市になるだろうといわれている。

#### カルナータカ州の概略

面積は19万1733平方キロメートルで、人口は約3200万人。公用語はカンナダ語。カルナータカとは「黒い土の国」の意。かつてこの地で栄えたチャールキヤ、ホイサラ、ヴィジャヤナガル諸王朝の遺跡が多く残る。バンカロールやマイソール近郊は、南インド有数の工業地帯として発展しつつある。

#### マドラス (Madras)

ベンガル湾に望むインド第4の大都市。タモル・ナードゥ州の州都で、人口約450万人。南インドの政治経済の中心地。高層ビルが少なく、独特の門塔をもつヒンドゥー寺院が町並みを織りなしている。近代のマドラスは、英国植民地支配の重要な拠点として発展してきたが、市街南東部のトゥリプリケーン地区やマイラポール地区は紀元前から栄えてきた。B.C. 1世紀頃、詩人ティルヴァッルヴァルが聖地「ティルクラル」を著し、A.D. 1世紀にはキリスト12使徒の一人聖人トーマスがこの地で殉職。近代になると、タミル人の民族的自覚を促した政治家アンナー・ドゥライや、民族詩人バーラディヤールを輩出した。現在は、シンガポールなどの東南アジア方面との経済的結びつきが強く、陸海空ともに南インドの表玄関としての機能を果たしている。

#### タミル・ナードゥ州の概略

面積は13万69平方キロメートルで、人口は約4600万人。公用語はタミル語。伝統的なヒンドゥー教が保持されたドラヴィダ文化（寺院建設、音楽、舞踏、文学など）の中心地。人々の民族意識はきわめて高い。いたるところに寺院があり、聖地や成人の数もインド随一。菜食主義者も多い。州都マドラスは、南インド映画産業の本拠地である。

#### ブバネーシュワル (Bhubaneswer)

1956年からオリッサ州の州都となった。紀元前には、カリンガ国の都であった。A.D.261年、アショーカ王の軍勢との合戦に敗れ、カリガン国は滅びる。その後、7世紀から15世紀にかけて、ブバネーシュワルはヒンドゥー教の聖地として復活した。この期間に多くの寺院が建てられた。最盛期には7000ものヒンドゥー寺院があったといわれ、現在でも500近くが旧市街に残っている。一方、新市街は広い道路が縦横に走り、新しいビルが建ち並んでいる。

#### コータ (Kota)

ラージャスターン州はデリーの西に位置し、広大な乾燥地帯にある。東部は岩肌の丘陵地帯で、西部はパキスタンに隣接するタール砂漠である。この地は、戦士カーストであったラージプート族の物語で知られている。ラージャスターン州の州都はジャイプル (Jaipur)。コータはラージャスターン州の工業の街で、肥料やセメントの工場がある。

#### ボンベイ (Bombay)

インドで最も近代化された先進的商業都市。高層ビルが林立し、高速ハイウェイが走る。電車網も発達していて、朝夕のラッシュ時になると各ターミナル駅は通勤のサラリーマンでごったがえす。ほとんどの人は洋服を着て、民族衣装を着た人はむしろ少数である。16世紀、漁民の住む7つの島でしかなかったこの地は、まずポルトガルによって開かれた。その後イギリスの支配下に入り、19世紀に島が埋め立てられ、多くの綿紡績工場が建設されて英領ボンベイの最盛期を迎えた。しかし、ボンベイは最も英国化した都市でありながら、激しいインド独立運動の拠点となった。

#### マハーラーシュトラ州

面積は約308平方キロメートルで、人口は約5600万人、公用語はマラーティー語。強大なムガル帝国やイギリス軍に抵抗したマラーター同盟発祥の地。インドで最も工業化、特に綿紡績が進んだ地域。

#### All India Coordinators Conference

11月に、ニューデリーとマドラスの2地域で開かれた。

会合で討議される内容は次の通りである。

- a) IGNOU の学習センターの拡大する役割と、コーディネイターの責務
  - b) 学習センターの基本的な施設設備の充実——備品、家具、図書、その他
  - c) アカデミック・カウンセラーの選択——オリエンテーションと責務
  - d) 学習センターでのカウンセリングと視聴覚セッションの運営
  - e) IGNOU の評価システム
  - f) IGNOU のプログラムと入学 (広報活動等)
  - g) 教材の配布
- (プログラムは別紙参照。)

## 参考文献

- Aggarwal, J.C. *Yearbook of Indian Education 1988-1989: World Overview*. 1688, Nai Sarak, Delhi-110006: Doaba House, 1988.
- Anand, Satyapal. *University Without Walls: Correspondence Education in India*. New York: Adveny NY, 1979.
- Ansari, N.A. *Adult Education in India*. New Delhi: S.Chand & Company LTD, 1984.
- 浅野哲哉『エリアガイド165：南インドの旅』昭文社、1990年。
- Asia Development Bank. *Distance Education in Asia and the Pacific*. Manila: Asia Development Bank, 1987.
- Arya, Sunanda. *Mass Media and Public Opinion in India: Role of All India Radio During the Bangladesh Crisis*. Jaipur (India): Printwell Publishers, 1989.
- Association of Indian Universities. *Status Report Series: Grading in Universities*. New Delhi: Association of India Universities, 1984.
- Association of Indian Universities. *Universities Handbook 1989*. AIU House, 16 Kitla Marg, New Delhi 110002: Association of Indian Universities, 1989.
- Awasthy, G.C. *Broadcasting in India*. Bombay: Allied Publishers Private Limited, 1965.
- Baruah, U.L. *This Is All Indian Radio: A Handbook of Radio Broadcasting in India*. New Delhi: Publications Division, Ministry of Information and Broadcasting, Government of India, 1983.
- ベルグ、ランセ、リサ・ベルグ『インド「緑の革命」と「赤い革命」』森谷文昭訳、朝日新聞社。バートン版「カーマ・スートラ」大場正史訳、角川文庫、1971年。
- Chakraborty, Krishna. *The University Student: Background Profile & Stance*. New Delhi: KP Bagchi, 1985.
- Chandhok, H.L. and The Policy Group. *India Database: The Economy, Annual Time Series Data*. New Delhi: Living Media India Ltd, 1990.
- Chitnis, Sima. *A Long Way to Go: Report on a Survey of Scheduled Caste High School & College Student in 15 States of India*. New Delhi: Allied Publishers Private Limited, 1981.
- クラーク、アーサー・C『幼年期の終わり』福島正実訳、ハヤカワ文庫、1979年。
- Desai, Anita. *Baumdarther's Bombay*. New York: Knopf, 1989.
- Deshpande, K.S. *University Library System in India*. New Delhi: Sterling Pubs., 1985.
- Dewal, O.S. *Open School. India: The Preliminary Years, 1978-1983*. Victoria: Deakin University, 1986.
- フォスター、E・M『インドへの道』瀬尾裕訳、筑摩書房、1985年。
- 藤原新也『インド放浪』朝日選書。
- 藤原新也『インド読本』福武文庫、1988年。
- 藤原新也『インド行脚』旺文社文庫、1982年。
- 後藤詠『エリアガイド164：東インドの旅』昭文社、1990年。
- Gupta, M.L. *Indian Economy and Higher Education: With Reference to Correspondence Education*. Jaipur: Aalekfa Publishers, 1985.
- 浜野保樹『ハイパーメディアと教育革命』アスキー、1990年。
- ハイライン、ロバート・A『夏への扉』福島正実訳、ハヤカワ文庫、1979年。
- 堀田善衛『インドで考えたこと』岩波新書、1957年。
- 石田保昭『インドで暮らす』岩波新書、1963年。
- 加藤周一『続羊の歌』岩波新書、1968年。
- キーティング、H・R・F『マハーラージャ殺し』真野明裕訳、ハヤカワ、ミステリ文庫、1998年。
- Khan, Inayat (ed.) *Teaching at a Distance: Some Paper on Distance Education*. Delhi: Amar Prakashan, 1989.
- Khan, M.Zahir. *Drug Use Amongst the College Youth*. New Delhi: South Asia Books, 1986.

- 辛島貴子『私たちのインド』中央文庫。
- 辛島昇、奈良康明『生活の世界歴史5・インドの顔』河出書房社。
- ラピエール、D、L・コンリズ『今夜、自由を：インド・パキスタンの独立』杉辺利英訳、ハヤカワ文庫、1981年。
- Kundu,C.L. *Indian Yearbook on Teacher Education*. New Delhi: Sterling Publishers Private Limited,1988.
- クノシュナムルティ、J『クリシュナルティの瞑想録』大野純一訳、平河出版社。
- 蜷川真夫『インド人の世界』朝日ソノラマ。
- Lash Joseph P. *Eleanor: The Years Alone*. New York:Meridian,1985.
- Luthra, H.R. *Indian Broadcasting*. New Delhi:Publication Division, Ministry of Information and Broadcasting, Government of India,1986.
- Mattai, Ravi J. *The Rural University: The Jawaja Experiment in Educational Innovation*. New Delhi:Popular Prakashan,1985.
- Mayhew, Arther, and H.R. James. *Developing of Education System in India*. New Delhi: Deep & Publication,1988.
- Mehendiratta, Pradeep. *University Administration in India & U.S.A*. New Delhi: Oxford IBH,1985.
- 宮元啓一『インド文明5000年の謎』光文社文庫、1989年。
- Mohanty, J.*Educational Broadcasting: Radio and Television*. New Delhi: Sterling Publishers Private Limited ,1984.
- Raza,Moonis, and Sudesh Nangia. *Atlas of the Child in India*. New Delhi: Concept Publishing Company,1986.
- Research and Reference Division, Ministry of Information and Broadcasting. *India 1988-1989: A Reference Annual*. New Delhi: Publication, Ministry of Information and Broadcasting, Government of India,1989.
- ルーズヴェルト、エリノア『エリノア・ルーズヴェルト自叙伝』坂西志保訳、時事通信社、1964年。
- Roosevelt, Eleanor. *India and Awakening East*. New York,1953.
- Sachdeva, S.K.(ed.). *India 1989: Annual Review*. New Delhi: Competition Review Pvt. Ltd.,1989,
- Secretariat,Lok Sabha. *National Education Policy*. New Delhi: Government of India Press,1985.
- Shah, Vimal P. *The Educational Problems of Scheduled Caste and Scheduled Tribe School and College Student in India: A Statistical Profile*. New Delhi: Allied Publishers Limited ,1982.
- Sharma, Sita Ram. *Education in India*. New Delhi: Anmol Publications,1990.
- 島崎藤村『夜明け前』岩波文庫、1969年。
- シン、カーシーナート『わたしの戦場：アジアの現代文学インド』荒井重雄訳、株式会社めこん。
- Singh, Amrik, and G.D. Sharma. *Higher Education in India: The Institutional Context*. Delhi: Konark Publishers PVT LTD,1989.
- Singh, Bakhshish. *Correspondence Education in India*. Patiala: National Council for Correspondence Education,1978.
- タブッキ、アントニオ『インド夜想曲』須賀敦子訳、白水社、1991年。
- Tikerar, Aroon. *The Cloister's Pale: A Biography of the University of Bombay*. New Delhi: Somaiya,1986.
- Waghmar, Sevakram, and Vanashree Waghmare. *Teaching Extension Education*. New Delhi: Metropolitan Book Co, Pvt. Ltd.,1989.
- シュルツ、タッド『1945年以後』吉田利子訳、文藝春秋、1991年。
- 辻直四郎『インド文明の暁』岩波新書、1967年。
- University Grants Commission. *Report for the year 1986-1987*. New Delhi: University Grants Com-

mission,1987.

Vedanayagam, E.G. *Teaching Technology for College Teachers*. New Delhi: Apt Books,1988.

渡辺建夫『インド青春群像』晶文社。

渡辺建夫『インド最後の王』晶文社。

渡辺建夫『インド反カーストの青春』晶文社。

渡辺建夫『タージ・マハル物語』朝日選書。

渡辺建夫『エリアガイド163：北西インドの旅』昭文社、1990年。

横尾忠則『インドへ』文春文庫。



# **ALL INDIA COORDINATORS CONFERENCE**

**NEW DELHI & MADRAS**

**NOVEMBER - 1990**

**REGIONAL SERVICES DIVISION  
INDIRA GANDHI NATIONAL OPEN UNIVERSITY**



## CONTENTS

| S.no | Particulars  | Page No. |
|------|--|----------|
| 1.   | Detailed Programme   | 1        |
| 2.   | Conference Strategy  | 9        |
| 3.   | Group Work   | 11       |
| 4.   | For the Information of   |          |
|      | i) the resource persons  | 18       |
|      | ii) the participants   | 19       |
|      | iii) the Report-Writing Group  | 20       |
|      | Annexure-A   | 21       |
| 5.   | Other Relevant Details   |          |
|      | a) Officers to Contact   | 22       |
|      | b) List of Participants  | 23       |
|      | c) List of Chair Persons   | 25       |
|      | d) List of Persons Introducing the Themes                                  | 26       |
|      | e) List of Resource Persons  | 27       |
|      | f) Local Organizing Committee  | 28       |
|      | g) Address of institutions where accommodation of participants is arranged | 29       |
| 6.   | Map with Study Centre locations  | 30       |



## REGIONAL SERVICES DIVISION

### ALL INDIA CONFERENCE OF COORDINATORS OF STUDY CENTRES

21 NOVEMBER 1990 TO 24 NOVEMBER 1990, MADRAS

**Participants:** Coordinators of Study Centres coming under the following States:  
Andhra Pradesh, Assam, Arunachal Pradesh, Andaman & Nicobar Islands, Goa, Karnataka, Kerala, Meghalaya, Manipur, Mizoram, Nagaland, Orissa, Pondicherry, Sikkim, Tripura, Tamilnadu, West Bengal

**Venue:** Central Lecture Theatre  
Humanities and Sciences Block  
Indian Institute of Technology  
Madras - 600 036.

#### Date/Day

21 NOVEMBER 1990 (WEDNESDAY)

8.00 AM to 8.45 AM

Registration of Participants

#### INAUGURAL FUNCTION

9.00 AM

Invocation

Welcome Address

Dr. S.N. Chaturvedi  
Director, Regional Services  
IGNOU

Special Address

Prof.V.C.Kulandaiswamy  
Vice-Chancellor, IGNOU

Presidential Address

Hon'ble Prof.K.Anbazhagan  
Minister of Education,  
Tamil Nadu.

Inaugural Address

His Excellency  
Thiru Surjeet Singh Barnala  
Governor of Tamil Nadu

10.30 AM

Inauguration of Exhibition

His Excellency  
Thiru Surjeet Singh Barnala  
Governor of Tamil Nadu

11 AM to 11.30 AM

TEA

11.30 AM to 12.30 PM

Introduction to the Conference

Dr. S.N. Chaturvedi  
Director, Regional Services  
IGNOU

12.30 PM to 2.00 PM

LUNCH

**SESSION-I**

|                     |                                    |  |
|---------------------|------------------------------------|--|
| 2.00 PM to 2.10 PM. | Chair Person                       | Prof. D.D. Joshi,<br>Pro Vice Chancellor   |
|                     | Topic                              | <b>Expanding Role of Study Centres and Responsibilities of Coordinators in IGNOU - perspective in the light of New Courses.</b><br>a) Role of Coordinators vis- a-vis other functionaries at Study Centres;<br>b) Relationship with Headquarters and Regional Centres - areas of doubts and problems.<br>c) Concept of Sub-centre and relationship with main Study Centre - Perspective for Computer Science and other application oriented courses. |
| 2.10 PM to 2.25 PM  | Introduction to the theme          | Sh. P. Satyanarayana   |
| 2.25 PM to 3.20 PM  | Speakers<br>(Amongst Coordinators) | Dr. N.T.Vedachalam, Hyderabad<br>Prof.D. Swamiraj, Trichy<br>Shri Jorem Begi, Itanagar<br>Mrs. Debjani Kar<br>Dr. P.K. Sharma, Dergaon<br>Prof. A.G. Thomas, Pathanamthitta  |
| 3.20 PM to 3.40 PM  | Resource Person                    | Dr. P.K. Mehta<br>Identification of Issues   |
| 3.40 PM to 3.55 PM  |                                    | <b>TEA</b>   |
| 3.55 PM to 4.55 PM  |                                    | Group work<br>(3 Groups of 8 persons each)   |
| 4.55 PM to 5.00 PM  |                                    | Collection of Reports from the Rap-<br>porteurs  |

**22 NOVEMBER 1990 (THURSDAY)**  
**SESSION - II**

|                      |                                    |  |
|----------------------|------------------------------------|--|
| 10.00 AM to 10.10 AM | Chair Person                       | Dr. S.N. Chaturvedi  |
|                      | Topic                              | <b>Development of Infrastructural Facilities at Study Centres -</b>  |
| 10.10 AM to 10.25 AM | Introduction to the theme          | Dr. Sriraman Srinivasan  |
| 10.25 AM to 11.20 AM | Speakers<br>(Amongst Coordinators) | Dr. A. Venkatadri, Warangal<br>Dr. D.V. Borker, Margao<br>Dr. Peter Jayapandian, Madurai<br>Prof. Doreswamy, Bangalore<br>Dr. Milan Kumar Behra, Sambalpur<br>Mrs. Debjani Kar, Calcutta |
| 11.20 AM to 11.40 AM | Resource Person                    | Dr. S.N. Suri  |
| 11.40 AM to 11.55 AM |                                    | Identification of Issues   |
| 11.55 AM to 12.55 PM |                                    | <b>TEA</b>   |
| 12.55 PM to 1.00 PM  |                                    | Group Work<br>(3 groups of 8 persons each)<br>Collection of reports from the Rapporteurs.  |
| 1.00 PM to 2.00 PM   |                                    | <b>LUNCH</b>   |

**22 NOVEMBER 1990 (THURSDAY)**  
**SESSION - III**

|                    |                                    |   |
|--------------------|------------------------------------|---|
| 2.00 PM to 2.10 PM | Chair Person                       | Dr. M. Shunmugam, Director, ICCE, University of Madras  |
|                    | Topic                              | <b>Selection of Academic Counsellors - Orientation and Responsibilities.</b>  |
| 2.10 PM to 2.25 PM | Introduction to the theme          | Dr. M.L. Koul   |
| 2.25 PM to 3.20 PM | Speakers<br>(Amongst Coordinators) | Dr. B.K. Dev Sharma, Shillong<br>Dr. Kaleemullah, Madras<br>Dr. V.K. George, Calicut<br>Prof. P.V. Lakshmanan, Kannur<br>Mr. Achutanand Misra, Bhubaneswar<br>Shri A.K. Das, Rourkela |
| 3.20 PM to 3.40 PM | Resource Person                    | Shri T.R. Srinivasan<br>Identification of Issues  |
| 3.40 PM to 3.55 PM |                                    | <b>TEA</b>  |
| 3.55 PM to 4.55 PM |                                    | Group Work<br>(3 Groups of 8 persons each)  |
| 4.55 PM to 5.00 PM |                                    | Collection of Reports from the Rapporteurs.   |

**23 NOVEMBER 1990 (FRIDAY)**  
**SESSION - IV**

|   |  |  |
|---|--|--|
| 10.00 AM to 10.10 AM                          | Chair Person<br>Topic  | Mr. P. Sathyanarayana<br><b>Organisation of Counselling and Audio/Video Sessions at Study Centres:</b><br>a) System so far working and its limitation;<br>b) Television transmission;<br>c) monitoring and counselling and its feedback. |
| 10.10. AM to 10.25 AM<br>10.25 AM to 11.20 AM | Introduction to the theme<br>Speakers (Amongst Coordinators) | Dr. P.K. Mehta<br>Dr. A. Deb Roy, Agartala<br>Dr. G. Md. Farhathullah, Madras<br>Shri. K.R. Venkatachalam, Kavaratti<br>Shri A.K. Das, Rourkela<br>Dr. B.K. Dev Sharma, Shillong<br>Dr. D.S. Bhattacharjee, Gangtok                      |
| 11.20 AM to 11.40 AM                          | Resource Person  | Dr. N.S. Ramegowda<br>Identification of Issues   |
| 11.40 AM to 11.55 AM                          |  | <b>TEA</b>   |
| 11.55 AM to 12.55 PM                          |  | Group Work<br>(3 Groups of 8 persons each)   |
| 12.55 PM to 1.00 PM                           |  | Collection of reports from the Rapporteurs   |
| 1.00 PM to 2.00 PM                            |  | <b>LUNCH</b>   |

**SESSION -V**

2.00 PM to 2.10 PM

Chair Person

Dr. P.K. Mehta

Topic

**IGNOU Evaluation System-  
Problems & Issues:**

- a) Term End Exam
- b) Continuous Evaluation
- c) System of handling of Assignment
- d) Monitoring and Feedback

2.10 PM to 2.25 PM

Introduction to the theme

Mr. D.C. Pant

2.25 PM to 3.20 PM

Speakers  
(Amongst Coordinators)

Dr. A. Kamalnath, Adoni  
Shri Bhagabat Panigrahi,  
Balasore  
Prof. H.V. Nagesh, Vidyagiri  
Dr. A.K. Goswami, Gawhati  
Dr. P.K. Sharma, Dergaon  
Shri George Mathai, Cochin

3.20 PM to 3.40 PM

Resource Person

Mr. K. Murugan  
Identification of Issues

3.40 PM to 3.55 PM

**TEA**

3.55 PM to 4.55 PM

Group Work  
(3 Groups of 8 persons each)

4.55 PM to 5.00 PM

Collection of Reports from the  
Rapporteurs.

**24 NOVEMBER 1990 (SATURDAY)**  
**SESSION - VI**

|                      |                                    |   |
|----------------------|------------------------------------|---|
| 10.00 AM to 10.10 AM | Chair Person<br>Topic              | Dr. B.S. Sudhindra<br><b>IGNOU Programmes and Admissions (preadmission information, advertisement and other methods of publicity, sale of forms and receipt of admissions lists) - Problems &amp; Issues</b>                      |
| 10.10 AM to 10.25 AM | Introduction to the theme          | Dr. K. Anjanappa  |
| 10.25 AM to 11.20 AM | Speakers<br>(Amongst Coordinators) | Dr. S.N. Giri, Calcutta<br>Prof. M.M. Upadhyaya, Ketika<br>Dr. N. Rajamony, Pondicherry<br>Prof. P.J. Chacko, Kottayam<br>Shri Tarun Kumar Dey, Kanchrapara<br>Dr. Subhas Chandra Jena, Cuttack<br>Dr. K. Veeram Reddy, Tirupathy |
| 11.20 AM to 11.40 AM | Resource Person                    | Dr. Gangadhar Sahu<br>Identification of Issues  |
| 11.40 AM to 11.55 AM |                                    | <b>TEA</b>  |
| 11.55 AM to 12.55 PM |                                    | Group Work<br>(3 Groups of 8 persons each)  |
| 12.55 PM to 2.00 PM. |                                    | <b>LUNCH</b>  |



## SESSION - VII

|                     |  |  |
|---------------------|--|--|
| 2.00 PM to 2.10 PM. | Chair Person                           | Dr. D.K. Choudhary   |
|                     | Topic                                  | <b>Materials Distribution - Problems &amp; Solutions</b>   |
| 2.10 PM to 2.25 PM  | Introduction to the theme              | Col.S.C. Mohan   |
| 2.25 PM to 3.20 PM  | Speakers<br>(Amongst Coordinators)     | Dr. S.N. Pandey, Imphal<br>Dr. A.K.S. Anal, Port Blair<br>Dr. D.A. R. Subramanyam, Guntur<br>Dr. L. D'Souza, Mangalore<br>Shri S. Sathyanarayanan, Madras<br>Mr. B.B. Nayak, Angul |
| 3.20 PM to 3.40 PM  | Resource Person                        | Dr. R.V. Vyas  |
| 3.40 PM to 3.55 PM  |  | Identification of Issues   |
| 3.55 PM to 4.40 PM  |  | <b>TEA</b>   |
| 4.40 PM to 5.30 PM  | <b>Valedictory</b><br>Chief Rapporteur | Group Work<br>(3 Groups of 8 persons each)   |
|                     |  | Prof. D. Swamiraj<br>Presentation of the Summary of the proceedings of the Conference  |
|                     | Vote of thanks                         |  |

## CONFERENCE STRATEGY

### Theme

The focus of the Conference will be on the following themes:

- a) Expanding role of Study Centres and Responsibilities of Coordinators in IGNOU - Perspective in the Light of New Courses
- b) Development of Infrastructural Facilities at Study Centres – Equipment, Furniture, Library and Other items.
- c) Selection of Academic Counsellors – Orientation and Responsibilities.
- d) Organisation of Counselling and Audio/Video session at Study Centres.
- e) IGNOU Evaluation System – Problems and Issues.
- f) IGNOU Programmes and Admissions (Pre-admission Information, Advertisement and other methods of Publicity, Sale of Forms and Receipt of Admission Lists) – Problems and Issues.
- g) Materials Distribution – Problems and Issues

These themes are of immediate relevance and cover practically all aspects related to the working of Study Centres. However, it is possible that some allied issues do not find explicit mention in the above themes. If there are any such aspects, the participants may give a note or write-up which can be distributed among the participants. However, discussion on such items would not be possible because of paucity of time but such items would be considered for inclusion in the report.

### Duration & Plan

The duration of the Conference is four days and each day there will be two sessions, each dealing with one theme.

The schedule of each session is prepared on the following pattern:

- |      |  |                                  |
|------|--|----------------------------------|
| i)   | Introductory remarks by the Chair Person   | 5-10 minutes                     |
| ii)  | Introduction to the theme by Experts from the University   | 15 minutes                       |
| iii) | Presentation of Papers by Coordinators<br>(It is expected that there would be about six presentations in each session) | 9 minutes<br>(each presentation) |
| iv)  | Identification of Issues by Resource Persons   | 20 minutes                       |

After identification of issues, there will be group work in each session wherein three groups consisting of 8 or 9 persons will take part. The groups would deliberate in depth for about an hour before they give their views on the issues involved. One Regional Director and/or one Assistant Regional Director will be there in each group. The Resource Person concerned will collect the reports along with recommendations from different groups. The reports thus collected will be furnished by the Resource Person to the member of the Report Writing Group concerned (See Annexure A)

This arrangement has been made with a view to systematically approach the problems of Study Centres and enable the Conference to come out with clear-cut suggestions/solutions. Every Coordinator will figure in one working group or the other.

It is possible that some Coordinators may like to be associated with more groups or to groups other than the ones for which they have been listed. In such circumstances, they are requested to work with the group to which they have been assigned and if they want to be associated with another group, they may indicate their preference to Dr. Sriraman Srinivasan or Shri. K. Murugan.

### **Report Writing Group**

For preparation of the final Report, there will be a Report Writing Group. It will prepare reports after receiving details from the Resource Persons after each session. The Report Writing Group will consist of the following:

Dr. N.S. Ramegowda  
Dr. Kaleemullah  
Dr. Ashok Kumar Poonam  
Prof. H.V. Nagesh  
Dr. N. Rajamony  
Sh. T. Krishnan  
Dr. D.V. Borkar  
Prof. GVVR Ramanujam  
Dr. E.R. Ekbote  
Dr. K. Asaithambi

### **Editorial Group**

The final editing of the document will be done by the Editorial Committee under the Chairmanship of Director (RS). After receipt of the report from Report Writing Group, this would be further edited and brought out in the form of a document by the Regional Services Division.

## GROUP WORK

SESSION : I  
 DATE : 21 NOVEMBER 1990  
 TIMING : 3.55 PM. to 4.55 PM.  
 THEME : Expanding Role of Study Centres and  
 Responsibilities of Coordinators in IGNOU -  
 Perspective in the light of New Courses.  
 Venue : Central Lecture Theatre  
 Humanities and Sciences Block  
 Indian Institute of Technology  
 Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

Dr. P.K. Mehta, RD  
 Dr. D. Swamiraj  
 Dr. N.T. Vedachalam  
 Dr. A.K. Goswami  
 Prof. Uma Kanta Giri  
 Prof. M.M. Upadhaya  
 Mr. P.K. Abdul Rasheed Haji  
 Dr.(Mrs) O. Cohtinho  
 ARD from Bangalore RC

#### Venue

Ahmedabad  
 Tiruchirapalli  
 Hyderabad  
 Gawhati  
 Malda  
 Ketika  
 Calicut  
 Belgaum

Room - A

### Group B

#### List of Members

Dr. N.S. Ramegowda, RD  
 Dr. GVVR Ramanamujam  
 Dr. Anantha Kamalnath  
 Shri Jorem Begi  
 Shri Narayanan Chandra Chatterjee  
 Shri K.R. Venkatachalam  
 Mrs. Debjani Kar  
 Dr. Ashok Kumar Poonam  
 Dr. B.M. Hosur

Bangalore  
 Vijayawada  
 Adoni  
 Itanagar  
 Katwa  
 Kavaratti  
 Calcutta  
 Bhubaneswar  
 Shimoga

Room - B

### Group C

#### List of Members

Dr. D.D. Kaushik RD  
 Dr. K. Veeram Reddy  
 Dr. D.A.R. Subramanyam  
 Smt. P. Ramadevi  
 Prof. P.V. Lakshmanan  
 Prof. P. Velayudhan  
 Shri Bhuwaneshwar Misra  
 Shri. N.K. Ramachandra Gowda  
 ARD from Calcutta RC

Bhopal  
 Tirupathi  
 Guntur  
 Hyderabad  
 Kannur  
 Trichur  
 Siliguri  
 Mysore

Room - C

## GROUP WORK

SESSION : II  
DATE : 22 NOVEMBER 1990  
TIMING : 11.55 AM. to 12.55 PM.  
THEME : Development of Infrastructural Facilities at  
Study Centres - Equipment, Furniture, Library and  
other items.  
Venue : Central Lecture Theatre  
Humanities and Sciences Block  
Indian Institute of Technology  
Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

|                          |              |          |
|--------------------------|--------------|----------|
| Dr. Gangadhar Sahu RD    | Bhubaneshwar |          |
| Dr. A. Venkatadri        | Warangal     |          |
| Dr. A.K.S. Anal          | Port Blair   | Room - A |
| Dr. D.V. Borker          | Margao       |          |
| Shri Amitabha Mukherjee  | Calcutta     |          |
| Shri Tarun Kumar Dey     | Kanchrapara  |          |
| Dr. D. Peter Jayapandian | Madurai      |          |
| Sh. S.P. Uttamchandani   | Ahmedabad    |          |
| Mr. T. Krishnan, ARD     | Cochin       |          |

### Group B

#### List of Members

|                           |           |          |
|---------------------------|-----------|----------|
| Dr. L.M. Roy Choudhury RD | Calcutta  |          |
| Shri K.V.S. Prasad        | Anantapur |          |
| Dr. M.R. Doreswamy        | Bangalore | Room - B |
| Dr. L.D'Souza             | Bangalore |          |
| Shri Deb Roy              | Agartala  |          |
| Mrs. Debjani Kar          | Calcutta  |          |
| Prof. H.V. Nagesh         | Vidyagiri |          |
| APOU Participant - 1      | Hyderabad |          |
| Dr.B.P. Narasimha Rao     | Madras-RC |          |

### Group C

#### List of Members

|                         |            |          |
|-------------------------|------------|----------|
| Dr. S.N.Suri RD         | Hqrs       |          |
| Dr. S. Vasudevan RD     | Cochin     |          |
| Dr. E.R. Ekbote         | Gulbarga   |          |
| Dr. D.K.P. Varadarajan  | Coimbatore | Room - C |
| Shri S. Sathyanarananan | Madras     |          |
| Dr. Milan Kumar Behra   | Sambalpur  |          |
| Dr. D.S. Bhattacharjee  | Gangtok    |          |
| ARD from Hyderabad      |            |          |

## GROUP WORK FORMATION

SESSION : III  
DATE : 22 NOVEMBER 1990  
TIMING : 3.55 PM. to 4.55 PM.  
THEME : Selection of Academic Counsellors -  
Orientation and Responsibilities.  
Venue : Central Lecture Theatre  
Humanities and Sciences Block  
Indian Institute of Technology  
Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

|                          |                |          |
|--------------------------|----------------|----------|
| Shri P. Satyanarayana RD | Hyderabad      |          |
| Prof. A.G. Thomas        | Pathanamthitta |          |
| Dr. B.K. Dev Sharma      | Shillong       |          |
| Dr. S.N. Pandey          | Imphal         | Room - A |
| Shri Chitrasan Jagatdeo  | Phulbani       |          |
| Dr. S.S. Misra           | Bolangir       |          |
| Dr. K.K. Sharma          | Kohima         |          |
| APOU Participant - 2     | Hyderabad      |          |
| ARD from Shillong        |                |          |

### Group B

#### List of Members

|                          |             |          |
|--------------------------|-------------|----------|
| Dr. D.N. Asopa RD        | Kota        |          |
| Dr. V.K. George          | Calicut     |          |
| Dr. Dipty Moyee Das      | Tura        |          |
| Dr. D. Peter Jayapandian | Madurai     | Room - B |
| Mr. Achutanand Misra     | Bhubaneswar |          |
| Mr. B.B. Nayak           | Angul       |          |
| Dr. C.N. Satyapalan      | Cochin-RC   |          |
| Mr. T.R. Srinivasan      | Madras-RC   |          |

### Group C

#### List of Members

|                        |                |          |
|------------------------|----------------|----------|
| Dr. R. Gujral RD       | Lucknow        |          |
| Shri Zochungununga     | Aizawal        |          |
| Dr. N. Rajamony        | Pondicherry    |          |
| Dr. S.N. Giri          | Calcutta       | Room - C |
| Mr. Bhagabat Panigrahi | Balasore       |          |
| Dr. B.K. Pattanaik     | Cuttack        |          |
| Mrs. Nomita de Sorcor  | Tinsukia       |          |
| Sh.S.P. Uttamchandani  | Ahmedabad      |          |
| Dr. Ashok Kumar Poonam | Bhubaneswar-RC |          |

## GROUP WORK

SESSION : IV  
 DATE : 23 NOVEMBER 1990  
 TIMING : 11.55 AM. to 12.55 PM.  
 THEME : Organisation of Counselling and Audio/Video Sessions  
 at Study Centres.  
 Venue : Central Lecture Theatre  
 Humanities and Sciences Block  
 Indian Institute of Technology  
 Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

|                             |           |          |
|-----------------------------|-----------|----------|
| Dr. Sriraman Srinivasan RD, | Madras    |          |
| Dr. Deb Roy                 | Agartala  |          |
| Dr. B.A. Parikh             | Surat     |          |
| Shri Haridwar Panda         | Ganjam    | Room - A |
| Prof. V.K. George           | Calicut   |          |
| Prof. M.R. Doreswamy        | Bangalore |          |
| Dr. B.K. Pattanaik          | Cuttack   |          |
| APOU Participant - 1        | Hyderabad |          |
| ARD from Calcutta RC        |           |          |

### Group B

#### List of Members

|                         |             |          |
|-------------------------|-------------|----------|
| Dr. D.K. Choudhary RD   | New Delhi   |          |
| Mr. Achutanand Misra    | Bhubaneswar |          |
| Dr. G. Md. Farhathullah | Madras      |          |
| Dr. D.S. Bhattacharjee  | Gangtok     | Room - B |
| Shri George Mathai      | Cochin      |          |
| Dr. B.K. Dev Sharma     | Shillong    |          |
| Dr. S.N. Pandey         | Imphal      |          |
| APOU Participant - 2    | Hyderabad   |          |
| ARD from Shillong RC    |             |          |

### Group C

#### List of Members

|                          |             |          |
|--------------------------|-------------|----------|
| Dr. N.S. Rame Gowda RD   | Bangalore   |          |
| Shri A.K. Das            | Rourkela    |          |
| Shri S. Sathyanarayanan  | Madras      | Room - C |
| Shri Amitabha Mukherjee, | Calcutta    |          |
| Dr. Dipty Moyee Das      | Tura        |          |
| Shri Zochungununga       | Aizawal     |          |
| Mr. S. Selvaraj          | Tuticorin   |          |
| Dr. C.N. Satyapalan      | Cochin - RC |          |
| ARD from Hyderabad RC    |             |          |

## GROUP WORK

SESSION : V  
DATE : 23 NOVEMBER 1990  
TIMING : 3.55 PM. to 4.55 PM.  
THEME : IGNOU Evaluation System - Problems and Issues  
Venue : Central Lecture Theatre  
Humanities and Sciences Block  
Indian Institute of Technology  
Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

|                     |    |           |          |
|---------------------|----|-----------|----------|
| Dr. R.V. Vyas       | RD | Shillong  |          |
| Mr. S. Selvaraj     |    | Tuticorin |          |
| Shri A.K. Das       |    | Rourkela  |          |
| Shri Haridwar Panda |    | Ganjam    |          |
| Dr. L.D'Souza       |    | Mangalore | Room - A |
| Dr. D.V. Borkar     |    | Margao    |          |
| Dr. P.V. Mahapatra  |    | Calcutta  |          |
| Sri K. Murugan      |    | Madras-RC |          |

### Group B

#### List of Members

|                         |    |           |          |
|-------------------------|----|-----------|----------|
| Dr. D.B. Negi           | RD | Shimla    |          |
| Dr. Deerajlal           |    | Salem     |          |
| Shri Bhagabat Panigrahi |    | Balasore  |          |
| Shri Chitrasan Jagatdeo |    | Phulbani  | Room - B |
| Prof. H.V. Nagesh       |    | Vidyagiri |          |
| Dr. K. Veeram Reddy     |    | Tirupathi |          |
| Shri Joram Begi         |    | Itanagar  |          |
| Shri. A.M. Ajathaswamy  |    | Bijapur   |          |
| Dr. B.P. Narasimha Rao  |    | Madras-RC |          |

### Group C

#### List of Members

|                         |    |                |          |
|-------------------------|----|----------------|----------|
| Dr. M.L. Koul           | AD | New Delhi (HQ) |          |
| Dr. Milan Kumar Behra   |    | Sambalpur      |          |
| Shri K.R. Venkatachalam |    | Kavaratti      | Room - C |
| Mrs. Debjani kar        |    | Calcutta       |          |
| Dr. Anantha Kamalnath   |    | Adoni          |          |
| Dr. A.K. Goswami        |    | Gawhati        |          |
| Dr. P.K. Sharma         |    | Dergaon        |          |
| ARD from Bangalore RC   |    |                |          |



## GROUP WORK

SESSION : VI  
DATE : 24 NOVEMBER 1990  
TIMING : 11.55 AM. to 12.55 PM.  
THEME : IGNOU Programmes and Admissions  
Venue : Central Lecture Theatre  
Humanities and Sciences Block  
Indian Institute of Technology  
Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

|                        |             |          |
|------------------------|-------------|----------|
| Dr. Gangadhar Sahu RD  | Bhubaneswar |          |
| Dr. S.S. Misra         | Bolangir    |          |
| Shri Tarun Kumar Dey   | Kanchrapara |          |
| Dr. S.N. Giri          | Calcutta    | Room - A |
| Sri. A.M. Ajathaswami  | Bijapur     |          |
| Mr. S. Selvaraj        | Tuticorin   |          |
| Prof. Uma Kanta Giri   | Malda       |          |
| Dr. Ashok Kumar Poonam | Bhubaneswar |          |

### Group B

#### List of Members

|                               |             |          |
|-------------------------------|-------------|----------|
| Dr.(Mrs.) K. Soundravalli     | Madras RC   |          |
| Shri Bhuwaneshar Misra        | Siliguri    |          |
| Prof. M.M. Upadhaya           | Ketika      |          |
| Prof. P.V. Lakshmanan         | Kannur      | Room - B |
| Dr. P.K. Chaudhuri, Former RD | Calcutta    |          |
| Dr. N. Rajamony               | Pondicherry |          |
| Shri K.V.S. Prasad            | Anantapur   |          |
| Dr. A. Venkatadhri            | Warangal    |          |
| ARD from Calcutta RC          |             |          |

### Group C

#### List of Members

|                       |             |          |
|-----------------------|-------------|----------|
| Mr. K. Murugan        | Madras - RC |          |
| Prof. P.J. Chacko     | Kottayam    |          |
| Prof. P. Velayudhan   | Trissur     | Room - C |
| Prof. GVVR Ramanujam  | Vijayawada  |          |
| Dr. B.A. Parikh       | Surat       |          |
| Mrs. Namita de Sorcar | Tinsukia    |          |
| Dr. B M Hosur         | Shimoga     |          |
| Smt. P. Ramadevi      | Hyderabad   |          |
| Mr. T. Krishnan ARD   | Cochin      |          |

## GROUP WORK

SESSION : VII  
DATE : 24 NOVEMBER 1990  
TIMING : 3.55 PM. to 4.40 PM.  
THEME : Materials Distribution -Problems and Solutions.  
Venue : Central Lecture Theatre  
Humanities and Sciences Block  
Indian Institute of Technology  
Madras 600 036.

### Group A

#### List of Members

|                               |                |          |
|-------------------------------|----------------|----------|
| Mr. T.R. Srinivasan           | Madras-RC      |          |
| Prof. A.G. Thomas             | Pathanamthitta |          |
| Dr. P.K. Chaudhuri, Former RD | Calcutta       |          |
| Dr. P.V. Mahapatra            | Calcutta       | Room - A |
| Mr. N.T. Vedachalam           | Hyderabad      |          |
| Mr. B.B. Nayak                | Angul          |          |
| Dr. P.K. Sharma               | Dergaon        |          |
| Sri. N.K. Ramachandra Gowda   | Mysore         |          |

### Group B

#### List of Members

|                                |                |          |
|--------------------------------|----------------|----------|
| Dr. R.V. Vyas RD               | Shillong       |          |
| Dr. M.L. Koul                  | New Delhi (HQ) |          |
| Dr. D.A.R. Subramanyam         | Guntur         |          |
| Dr. G. Md. Farhathullah        | Madras         |          |
| Dr. A.K.S. Anal                | Port Blair     | Room - B |
| Prof. P.J. Chacko              | Kottayam       |          |
| Sri Narayan Chandra Chetterjee | Katwa          |          |
| Dr.(Mrs)K Soundravalli         | Madras-RC      |          |

### Group C

#### List of Members

|                        |                |          |
|------------------------|----------------|----------|
| Dr. B.S. Sudhindra     | New Delhi (HQ) |          |
| Dr. (Mrs.) O. Cohtinho | Belgaum        |          |
| Dr. D.K.P. Varadarajan | Coimbatore     | Room - C |
| Dr. E.R. Ekbote        | Gulbarga       |          |
| Mr. George Mathai      | Cochin         |          |
| Dr. A.K.S. Anal        | Port Blair     |          |
| Dr. Dheerajlal         | Salem          |          |
| ARD from Shillong RC   |                |          |

## **FOR THE INFORMATION OF THE RESOURCE PERSONS**

It would be observed from the Daily Agenda of the Conference that each session has broadly been divided into five parts. These are:

- i) Briefing by the Chair Person,
- ii) Introduction to the Theme,
- iii) Presentation of Papers,
- iv) Identification of Issues, and
- v) Group Work

Each activity has been assigned to different set of participants/experts. It is visualized in this context that each session will have one Resource Person. The Resource Person will be responsible for the identification of the issues. During the presentation of papers by the Speakers, the Resource Persons are expected to prepare brief notes and identify the issues. After the presentation of papers by the Speakers is over, the Resource Person would highlight the issues emerging out of the presentations made by the Speakers and other participants and assist the Chair Person in clarifying the issues for group work.

After the identification of the issues and brief discussions among the participants, the participants will split into three groups and discuss the issues identified thoroughly. Each group will come out with a detailed report with suggestions and recommendations. The Resource Person of the session has also been made a member of one of the groups so that the doubts and misconceptions arising during the group work can be clarified by him.

The Resource person will also be responsible for completing, within the specified time, the identification of issues and the group work. The resource person's responsibility in report-writing has been separately explained.

## FOR THE INFORMATION OF PARTICIPANTS

1. Please register your name as soon as you arrive at the conference venue (8.00 a.m.) on 21st Nov.90.
2. A TA/DA form is put inside the conference bag given to you on Registration. You are requested to fill this form and return it at the conference office before the morning session starts on 22nd Nov.1990.
3. We are planning to arrange a conveyance to pick you up from the place of your accommodation and drop you back there. Volunteers will be available at the place of accommodation to guide you to the venue of conference, if conveyance could not be arranged.
4. The rooms where you are put up are reserved upto 25th evening. If you want to stay longer, you can talk to the persons in-charge of such accommodation and arrange for your extended stay.
5. Schedules of arrival and departure times of trains, buses and flights are enclosed for reference if necessary. A Madras city map is also enclosed giving location of the conference venue and accommodation centres.

## **FOR THE INFORMATION OF THE REPORT WRITING GROUP**

- 1) The proposed format of the Report of the Conference is as under:
  - i) Proceedings of the Conference
  - ii) Introduction to various themes & presentation of papers
  - iii) Other details/annexures
- 2) It would be observed that a time slot of 15 minutes has been kept in each session for introduction to the theme. Though it has not been specified, it is presumed that some kind of paper or list of points or resume of the theme would be available with the person who introduces the theme
- 3) The papers presented by Coordinators pertaining to relevant themes will be collected by the Resource Person after each session, who will at the end of these presentations, sum up the main issues for discussion by different groups. The proceedings for each session would be prepared by the Resource Person concerned. Wherever papers are not presented but the speakers cover the issues relevant to the theme, these points will also be suitably incorporated in the proceeding by the resource person. Papers and reports prepared at this stage will be handed over to the member of the Report Writing Group assigned to the session (See Annexure A)

During the group work the Regional Directors/Assistant Regional Directors attached to a particular group are expected to help in recording the deliberation in the form of proceedings. The reports of the Groups will again be handed over to the member of the Report Writing Group assigned to the session (See Annexure A)

After receipt of these reports, the Report Writing Group will consolidate the report in the format stated above. Stenographic assistance will be provided by the Regional Director, Madras to resource persons/Report Writing Group to the extent possible wherever required. It is necessary that reports are immediately prepared after each session (latest by the same day evening) so that at the end of the Conference, the proceedings can be summed up and presented before the participants. Subsequently, after these reports have been consolidated, they will be handed over to the Editorial Committee for bringing them out in the form of a Report.

## ANNEXURE A

| Date        | Session No.         | Resource Persons   | Member of Report Writing group        |
|-------------|---------------------|--------------------|---------------------------------------|
| 21st Nov.90 | Inauguration        |                    | Dr. N.S. Ramegowda<br>Dr. Kaleemullah |
| 21st Nov.90 | Session I           | Dr. P.K. Mehta     | Dr. Ashok Kumar<br>Poonam             |
| 22nd Nov.90 | Session II          | Dr. S.N. Suri      | Prof. H.V. Nagesh                     |
| 22nd Nov.90 | Session III         | Sri.T.R.Srinivasan | Dr. N. Rajamony                       |
| 23rd Nov.90 | Session IV          | Dr. N.S. Ramegowda | Sri. T. Krishnan                      |
| 23rd Nov.90 | Session V           | Mr. K. Murugan     | Dr. D.V. Borkar                       |
| 24th Nov.90 | Session VI          | Dr. G. Sahu        | Prof.GVVR<br>Ramanujam                |
| 24th Nov.90 | Session VII         | Dr. R.V. Vyas      | Dr. E.R. Ekbote                       |
| 24th Nov.90 | Valedictory Session |                    | Dr. K Asaithambi                      |

Stenographic assistance will be given by Regional Director, Madras to the Resource persons/the Report Writing Group to the extent possible whenever required.

## OFFICERS TO CONTACT

### (a) Conference related matters

- |    |   |  |
|----|---|--|
| 1. | Accommodation                                 | Dr. Sriraman Srinivasan<br>Regional Director<br>Mr. D. Vijayaraghavan<br>Section Officer |
| 2. | Conference Papers                             | Mr. T.R. Srinivasan<br>Asst Regional Director<br>Mr. K. Murugan<br>Lecturer              |
| 3. | TA Bills                                      | Mr. D. Vijayaraghavan<br>Mr. D. Seshadri &<br>Mr. P.V. Ramana Reddy                      |
| 4. | Departure before completion of the Conference | Dr. S.N. Chaturvedi<br>Director (RS)   |
| 5. | Changes in the group formation                | Dr. Sriraman Srinivasan<br>Mr. K. Murugan  |
| 6. | Submission of Reports                         | Dr. B.S. Sudhindra<br>Prof. D. Swamiraj  |

### (b) Other matters

- |    |                        |   |
|----|------------------------|---|
| 1. | Secretarial Assistance | Mr. R. Muthanandam<br>Mr. J.R. Ganesan<br>Mrs. Kala Balaji<br>Ms. S. Saroja                               |
| 2. | General Assistance     | Mr. S. Balasubramanian<br>Mr. Z.F. Rahman<br>Mr. M.S. Mohan<br>Mr. K. Mahalingam<br>Mr. G. Santhosh Kumar |

## LIST OF PARTICIPANTS

| Sl.No. | Name of the Participant  | Study Centre   |
|--------|--------------------------|----------------|
| 1.     | Dr. B.A. Parikh          | Surat          |
| 2.     | Sh.S P Uthamchandani     | Ahmedabad      |
| 3.     | Sh. A M Ajathaswamy      | Bijapur        |
| 4.     | Dr. B M Sosur            | Shimoga        |
| 5.     | Sh N K Ramachandra Gowda | Mysore         |
| 6.     | Dr(Mrs.) O. Cohtinho     | Belgaum        |
| 7.     | Dr. E.R. Ekbote.         | Gulbarga       |
| 8.     | Prof. H V Nagesh.        | Dharwad        |
| 9.     | Dr. L D'Souza            | Mangalore      |
| 10.    | Prof. M.R. Doreswamy     | Bangalore      |
| 11.    | Dr. D V Borkar           | Margao         |
| 12.    | Bhagabat Panigrahi       | Balasore       |
| 13.    | Dr. B.K. Pattanaik       | Cuttack        |
| 14.    | Sh. A K Das              | Rourkela       |
| 15.    | Dr. S.S. Misra           | Bolangir       |
| 16.    | Mr. Achutanand Misra.    | Bhubaneswar    |
| 17.    | Chitrasen Jagatdeo       | Phulbani       |
| 18.    | Sri Haridwar Pounda      | Ganjam         |
| 19.    | Sri. B.B. Nayak          | Angul          |
| 20.    | Dr.Milan Kumar Behra     | Sambalpur      |
| 21.    | Mrs. Debjani Kar         | Calcutta       |
| 22.    | Shri Tarun Kumar Dey     | Kanchrapara    |
| 23.    | Shri Narayan Chandra     | Katwa          |
| 24.    | M. . Amitabha Mukherjee  | Calcutta       |
| 25.    | Sh Bhuwaneshar Misra     | Siliguri       |
| 26.    | Prof. Uma Kanta Giri     | Malda          |
| 27.    | Prof M M Upadhaya        | Pururila       |
| 28.    | Dr S N Giri              | Calcutta       |
| 29.    | Dr P K Mahapatra         | Calcutta       |
| 30.    | Prof. P.J. Chacko        | Kottayam       |
| 31.    | Mr.P.K. Abdul Rasheed    | Calicut        |
| 32.    | Prof. A G Thomas         | Pathanamthitta |
| 33.    | Prof. P. Velayudhan      | Trissur        |
| 34.    | Sh. George Mathai        | Kakanad        |
| 35.    | Sh. V K George           | Calicut        |



| Sl.No. | Name of the Participant                         | Study Centre |
|--------|---|--------------|
| 36.    | Sh K R Venkatachalam                            | Lakshadweep  |
| 37.    | Prof. P V Lakshmanan                            | Kannur       |
| 38.    | Dr. Anantha Kamalnath                           | Adoni        |
| 39.    | Smt. P. Ramadevi                                | Hyderabad    |
| 40.    | Dr. A. Venkatadri                               | Warangal     |
| 41.    | Dr. D.A.R. Subramanyam                          | Guntur       |
| 42.    | Sh. N.T. Vedachalam                             | Hyderabad    |
| 43.    | Dr. K. Veeram Reddy                             | Tirupathi    |
| 44.    | Sh. GVVR Ramanujam                              | Vijayawada   |
| 45.    | Sh. K V S Prasad                                | Anantapur    |
| 46.    | Dr. S.N. Pandey                                 | Imphal       |
| 47.    | Sh Joram Begi                                   | Itanagar     |
| 48.    | Dr. P K Sharma                                  | Dergoan      |
| 49.    | Dr. A. Deb Roy                                  | Agartala     |
| 50.    | Dr. A.K. Goswami                                | Gawahati     |
| 51.    | Dr K K Sharma                                   | Kohima       |
| 52.    | Dr Dipty Moyee Das                              | Tura         |
| 53.    | Dr. B K Dev Sharma                              | Shillong     |
| 54.    | Smt. Namita De Sorkar                           | Tinsukia     |
| 55.    | Dr. D.S. Bhattacharjee                          | Gangtok      |
| 56.    | Sh. Zochungnunga                                | Aizawal      |
| 57.    | Dr. A K S Anal                                  | Port Blair   |
| 58.    | Sh S Satyanarayanan                             | Madras       |
| 59.    | Prof DKP Varadarajan                            | Coimbatore   |
| 60.    | Dr. Peter Jayapandian                           | Madurai      |
| 61.    | Prof D Swamiraj                                 | Trichy       |
| 62.    | Prof G.Md Farhathulla                           | Madras       |
| 63.    | Dr. Kaleemullah                                 | Madras       |
| 64.    | Dr. N. Rajamony                                 | Pondicherry  |
| 65.    | Dr Dheeraj Lal                                  | Salem        |
| 66.    | Prof. S Selvaraj                                | Tuticorin    |
| 67.    | Dr. P. Ashok Kumar                              | Bhubaneswar  |
| 68.    | Mr. T. Krishnan                                 | Cochin       |
| 69.    | Dr. K. Asaithambi                               | Port Blair   |
| 70.    | Dr. C.N. Satyapalan<br>Former Regional Director | Cochin       |
| 71.    | Dr. D.K. Choudhuri<br>Former Regional Director  | Calcutta     |

## LIST OF CHAIR PERSONS

| S.No. | Name  | Session | Date & Time              | Theme  |
|-------|---|---------|--------------------------|--|
| 1.    | Dr. S.N. Chaturvedi<br>Director,<br>Regional Services,<br>IGNOU | I       | 21st Nov. 90<br>2.00 PM  | Expanding Role of Study<br>Centres and Responsibilities<br>of Coordinators in the light of<br>New Courses              |
| 2.    | Dr. D.D. Joshi<br>Pro Vice-Chancellor<br>IGNOU                  | II      | 22nd Nov. 90<br>10.00 AM | Development of Infrastruc-<br>tural Facilities at Study<br>Centres - Equipment Furni-<br>ture, Library and Other items |
| 3.    | Dr. M.Shanmugam<br>Director, ICCE<br>University of Madras       | III     | 22nd Nov. 90<br>2.00 PM  | Selection of Academic Coun-<br>sellors - Orientation and<br>Responsibilities   |
| 4.    | Mr. P. Sathyanarayana<br>Regional Director<br>Hyderabad         | IV      | 23rd Nov.90<br>10.00 AM  | Organisation of Counselling<br>and Audio/Video Sessions at<br>Study Centres  |
| 5.    | Dr. P.K. Mehta<br>Regional Director<br>Ahmedabad                | V       | 23rd Nov.90<br>2.00 PM   | IGNOU Evaluation System-<br>Problems and Issues  |
| 6.    | Dr. B.S.Sudhindra<br>Regional Director<br>(Hqrs)RSD             | VI      | 24th Nov.90<br>10.00 AM  | IGNOU Programme and Ad-<br>missions - Problems and Issues  |
| 7.    | Dr.D.K. Chaudhary<br>Regional Director<br>New Delhi             | VII     | 24th Nov.90<br>2.00 PM   | Materials Distribution -<br>Problems and Solutions   |

## LIST OF PERSONS INTRODUCING THE THEMES

| S.NO. | Name  | Session | Date & Time             | Theme   |
|-------|---|---------|-------------------------|---|
| 1.    | Sh. P. Satyanarayana<br>Regional Director<br>Hyderabad                | I       | 21st Nov.90<br>2.10 PM  | Expanding Role of Study Centres and Responsibilities of Coordinators in IGNOU - Perspective in the light of New Courses |
| 2.    | Dr. Sriraman Srinivasan<br>Regional Director<br>Madras                | II      | 22nd Nov.90<br>10.10 AM | Development of Infrastructural Facilities at Study Centres - Equipment, Furniture, Library, and other items             |
| 3.    | Dr. M.L. Koul<br>Incharge<br>Student Affairs (RSD)                    | III     | 22nd Nov.90<br>2.10 PM  | Selection of Academic Counsellors- Orientation and Responsibilities   |
| 4.    | Dr. P.K. Mehta<br>Regional Director<br>Ahmedabad                      | IV      | 23rd Nov.90<br>10.10 AM | Organisation of Counselling and Audio/Video Sessions at Study Centres   |
| 5.    | Dr. D.C. Pant<br>Director<br>Evaluation Division                      | V       | 23rd Nov.90<br>2.10 PM  | IGNOU Evaluation System-Problems and Issues   |
| 6.    | Dr. K. Anjanappa<br>Registrar<br>Admission Division                   | VI      | 24th Nov.90<br>10.10 AM | IGNOU Programmes and Admissions - Problems and Issues   |
| 7.    | Col. S.C. Mohan<br>Joint Registrar<br>Materials Distribution Division | VII     | 24th Nov.90<br>2.10 PM  | Materials Distribution-Problems and Solutions   |

## LIST OF RESOURCE PERSONS

| S.no. | Name   | Session | Date & Time             | Theme   |
|-------|--|---------|-------------------------|---|
| 1.    | Dr. P.K. Mehta<br>Regional Director<br>Ahmedabad         | I       | 21st Nov.90<br>2.00 PM  | Expanding Role of Study Centres and Responsibilities of Coordinators in IGNOU - Perspective in the light of New Courses |
| 2.    | Dr. S.N. Suri<br>Regional Director<br>(Hqrs) RSD         | II      | 22nd Nov.90<br>10.00 AM | Development of Infrastructural Facilities at Study Centres - Equipment, Furniture, Library and other Items              |
| 3.    | Shri.T.R. Srinivasan<br>Asst Regional Director<br>Madras | III     | 22nd Nov.90<br>2.00 PM  | Selection of Academic Counsellors - Orientation and Responsibilities  |
| 4.    | Dr. N.S. Ramegowda<br>Regional Director<br>Bangalore     | IV      | 23rd Nov.90<br>10.00 AM | Organisation of Counselling and Audio/Video Sessions at Study Centres   |
| 5.    | Mr. K. Murugan<br>Lecturer<br>Madras                     | V       | 23rd Nov.90<br>2.00 PM  | IGNOU Evaluation System-Problems and Issues   |
| 6.    | Dr. G. Sahu<br>Regional Director<br>Bhubaneswar          | VI      | 24th Nov.90<br>10.00 AM | IGNOU Programme and Admissions - Problems and Issues  |
| 7.    | Dr. R.V. Vyas<br>Regional Director<br>Shillong           | VII     | 24th Nov.90<br>2.00 PM  | Materials Distribution - Problems and Solutions   |

## LOCAL ORGANIZING COMMITTEE

|                          |                                       |          |
|--------------------------|---------------------------------------|----------|
| Dr. S.N. Chaturvedi      | Director (RS)                         | Chairman |
| Dr. Sriraman Srinivasan  | Regional Director<br>Madras           | Convener |
| Mr. V. Shanmugam         | Registrar<br>IIT, Madras              | Member   |
| Mr. A.K. Pattabiraman    | PRO, IIT, Madras                      | Member   |
| Mr. N. Malayalam         | Executive Engineer<br>IIT, Madras     | Member   |
| Mr. M. Veerabhadra Rao   | Dept of Physics<br>IIT, Madras        | Member   |
| Prof. G. Md. Farhatullah | Coordinator<br>Madras Study Centre II | Member   |
| Dr. Kaleemullah          | Asst Co-ordinator                     | Member   |
| Dr. K. Asaithambi        | Port Blair Study Centre               | Member   |
| Mr. T.R. Srinivasan      | Madras Regional Centre                | Member   |
| Dr.(Mrs.) K Soundravalli | Madras Regional Centre                | Member   |
| Mr. K. Murugan           | Madras Regional Centre                | Member   |
| Dr. B.P.Narasimha Rao    | Madras Regional Centre                | Member   |
| Mr. D. Vijayaraghavan    | Madras Regional Centre                | Member   |

**ADDRESSES OF INSTITUTIONS  
WHERE ACCOMMODATION OF PARTICIPANTS IS ARRANGED**

| Institution Name                              | Address   | Telephone                            |
|---|---|--------------------------------------|
| YMCA Guest House                              | 24, West Cott Road, Opposite to Royapettah Hospital, Madras-600 014 | 832554                               |
| Inter-Church Service Association (ICSA)       | 93, Pantheon Road, Egmore, Madras 600 008                           | 832837                               |
| COSTED  | 24, Gandhi Mantap Road, Madras-600 025                              | 419466                               |
| Guest House<br>Tower Testing Research Station | Opp to International Airport Terminal, Madras.                      |                                      |
| Central Leather Research Institute (CLRI)     | Sardar Patel Road, Adyar, Madras-600 020                            | 412616<br>412723<br>412868<br>412993 |



# INDIRA GANDHI NATIONAL OPEN UNIVERSITY



REGIONAL CENTRES - 13

STUDY CENTRES - 133

